

令和5年度

# 研修実績報告書

環境省環境調査研修所

## 目次

1	令和5年度の研修について	1
2	令和5年度の研修内容について	1
表1	令和5年度研修コース別実績（研修修了者数）	3
表2	研修日数及び研修修了者数の前年度実績との比較	4
表3	所属機関別研修修了者数の前年度との比較	5
	(参考)令和5年度研修日程表	6
	(別添資料)各研修の実施要綱及び日程表等	
	●行政研修	
	地方公共団体実行計画研修	8
	日中韓三カ国合同環境研修	13
	動物愛護管理研修	19
	産業廃棄物対策研修（基礎）	24
	廃棄物・リサイクル専攻別研修（循環型社会実践コース）	28
	国際環境協力基本研修	32
	環境問題史研修（もやい直しー水俣の経験から学ぶ地域再生ー）	36
	●分析研修	
	水質分析研修	40
	特定機器分析研修Ⅰ（ICP-MS）	47
	特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）	52
	大気分析研修	58
	廃棄物分析研修	64
	VOCs分析研修（水質）	69
	アスベスト分析研修	74
	研修支援教材の配信	78
	●職員研修	
	環境省新採用職員研修	84
	環境省職員研修（課長補佐級）	87
	自然保護官等研修Ⅰ	90
	自然保護官等研修Ⅱ	94
	自然保護官等研修Ⅲ	98

環境行政基本研修	102
環境省職員研修（環境問題史）	105
環境省職員研修（令和2年度入省職員フォローアップ研修）	109

## 1. 令和5年度の研修について

令和5年度には、表1「令和5年度研修コース別実績」のとおり、行政研修7コース（7回）、分析研修7コース（8回）及び職員研修8コース（8回）の合計22コース（23回）の研修を実施した。

令和5年度の研修修了者は、令和4年度より812名増加して887名となった。修了者の研修区分別数は、行政研修が248名、分析研修が108名、職員研修が531名であった。

研修コース別の実施時期、研修日数及び修了者数の実績は表1のとおりである。表2は研修日数及び修了者数について、前年度実績との比較を示している。

所属機関別の修了者の割合は、国が49.9%、地方公共団体が42.6%（うち、都道府県が24.0%、市区町村が18.6%）、独法等が6.1%、その他が1.4%となっている（表3参照）。

## 2. 令和5年度の研修内容について

### (1) 行政研修

- ① 地方公共団体実行計画（区域施策編）において、小規模な団体を中心に計画の策定率が低い傾向にあることを背景とし、新規に「地方公共団体実行計画策定研修」を実施した。
- ② 「日中韓三カ国合同環境研修」については、中国がホスト国となり協同実施した（令和4年度には韓国がホスト国となって実施。）。
- ③ 「産業廃棄物対策研修（基礎）」、「廃棄物・リサイクル専攻別研修（循環型社会実践コース）」、「国際環境協力基本研修」については、一部講義動画のオンデマンド配信を行った。また、「産業廃棄物対策研修（基礎）」では、研修生とは別に講義動画のみの視聴を希望する者を募り610名の登録があった。

### (2) 分析研修

- ① 「水質分析研修」、「特定機器分析研修Ⅰ（ICP-MS）」、「特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）」、「大気分析研修」、「廃棄物分析研修」、「VOCs分析研修（水質）」においては、一部、講義動画のオンデマンド配信、講義のリアルタイム配信およびオンライン討議を行った。
- ② 昨年度に引き続き、従来実施してきた分析研修の研修カリキュラムに関連した研修支援教材（動画教材）を作成し、環境分析業務に携わる実務者を対象に配信を行った。支援教材について聴講登録をした各組織・機関担当者数は、前期291名、後期245名、延べ536名であった。

### (3) 職員研修

- ① 「環境省新採用職員研修」については、新たな試みとして、講義動画のオンデマンド配信、講義のリアルタイム配信及び集合形式を組み合わせ実施した。

- ② 「環境省職員研修（課長補佐級）」については、従来環境調査研修所で実施していたものの、地方支分部局の対象者が参加しやすいように、初めて全地方環境事務所において実施をした。
- ③ 「環境行政基本研修」については、講義のリアルタイム配信にて全課程を実施した。
- ④ 令和２年度入省職員について集合形式の環境省新採用職員研修の実施が見送られていたことを背景に、フォローアップとして新規に「環境省職員研修（令和２年度入省職員フォローアップ研修）」を実施した。

表1 令和5年度研修コース別実績(研修修了者数)

区分	研修の名称	研修期間	研修日数 【うち集合】 (日)	研修生 数(人)	研修修了者数(人)					
					国	都道府県	市区町村	独法等	その他	合計
行政 研修	地方公共団体実行計画策定研修	11月27日-12月1日	5【5】	12	0	0	12	0	0	12
	日中韓三カ国合同環境研修	12月6日-12月9日	4【4】	17	0	4	1	0	12	17
	動物愛護管理研修	7月24日-7月28日	5【5】	74	1	41	29	0	0	71
	産業廃棄物対策研修(基礎)	10月23日-11月17日	19【4】	77	0	37	39	0	0	76
	廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース)	11月6日-11月17日	10【3】	41	0	23	17	0	0	40
	国際環境協力基本研修	1月22日-2月2日	10【3】	18	1	9	6	1	0	17
	環境問題史研修(もやい直し-水俣の経験から学ぶ地域再生-)	1月17日-1月19日	3【3】	15	0	7	6	2	0	15
	小計		56【27】	254	2	121	110	3	12	248
分析 研修	水質分析研修	11月20日-12月13日	15【5】	36	0	19	15	1	0	35
	特定機器分析研修 I (ICP-MS)	8月31日-9月20日	13【5】	12	0	12	0	0	0	12
	特定機器分析研修 II (LC/MS/MS) (第1回)	8月31日-9月20日	13【5】	8	0	8	0	0	0	8
	特定機器分析研修 II (LC/MS/MS) (第2回)	10月3日-10月25日	14【5】	8	0	8	0	0	0	8
	大気分析研修	1月16日-2月14日	20【5】	21	0	19	1	1	0	21
	廃棄物分析研修	10月3日-10月25日	14【5】	10	0	10	0	0	0	10
	VOCs分析研修(水質)	2月27日-3月8日	9【5】	8	0	5	3	0	0	8
	アスベスト分析研修	11月6日-11月10日	5【5】	6	0	6	0	0	0	6
	研修支援教材の配信	(前期)6月7日-9月29日 (後期)10月2日-3月29日								
	小計		103【40】	109	0	87	19	2	0	108
職員 研修	環境省新採用職員研修	4月4日-4月21日	3【1】	75	73	0	0	0	0	73
	環境省職員研修(課長補佐級)	7月-8月の間	1【1】	96	80	0	0	0	0	80
	自然保護官等研修 I	1月30日-2月2日	4【4】	22	22	0	0	0	0	22
	自然保護官等研修 II	11月14日-11月17日	4【4】	25	24	0	0	0	0	24
	自然保護官等研修 III	1月31日-2月2日	3【3】	13	12	0	0	0	0	12
	環境行政基本研修	4月4日-4月6日	2【0】	338	163	5	36	49	0	253
	環境省職員研修(環境問題史)	1月17日-1月19日	3【3】	15	15	0	0	0	0	15
	環境省職員研修(令和2年度入省職員フォローアップ研修)	2月15日-2月16日	2【2】	60	52	0	0	0	0	52
	小計		22【18】	644	441	5	36	49	0	531
	合計		181【85】	1007	443	213	165	54	12	887

- (注) 1.このほか、環境行政実務研修の修了者が65名であった。  
 2.研修修了者数における「その他」は、海外からの研修生である。  
 3.「産業廃棄物対策研修(基礎)」の動画視聴希望登録者数は610名であった。また、「研修支援教材の配信」の各組織・機関担当登録者数は前期291名、後期245名、延べ536名であった。

表2 研修日数及び研修修了者数の令和4年度実績との比較

区分	令和4年度			令和5年度		
	研修の名称	研修日数(日)	修了者数(人)	研修の名称	研修日数【うち集合】(日)	修了者数(人)
行政研修		—	—	地方公共団体実行計画策定研修	5【5】	12
	日中韓三カ国合同環境研修	3	9	日中韓三カ国合同環境研修	4【4】	17
		—	—	動物愛護管理研修	5【5】	71
		—	—	産業廃棄物対策研修(基礎)	19【4】	76
		—	—	廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース)	10【3】	40
		—	—	国際環境協力基本研修	10【3】	17
		—	—	環境問題史研修(もやい直しー水俣の経験から学ぶ地域再生ー)	3【3】	15
	小計	3	9	小計	56【27】	248
分析研修		—	—	水質分析研修	15【5】	35
		—	—	特定機器分析研修 I (ICP-MS)	13【5】	12
		—	—	特定機器分析研修 II (LC/MS/MS) (第1回)	13【5】	8
		—	—	特定機器分析研修 II (LC/MS/MS) (第2回)	14【5】	8
		—	—	大気分析研修	20【5】	21
		—	—	廃棄物分析研修	14【5】	10
		—	—	VOCs分析研修(水質)	9【5】	8
		—	—	アスベスト分析研修	5【5】	6
	—	—	研修支援教材の配信	—	—	
	小計	0	0	小計	103【40】	108
職員研修		—	—	環境省新採用職員研修	3【1】	73
	環境省職員研修(課長補佐級)	3	25	環境省職員研修(課長補佐級)	1【1】	80
		—	—	自然保護官等研修 I	4【4】	22
		—	—	自然保護官等研修 II	4【4】	24
		—	—	自然保護官等研修 III	3【3】	12
		—	—	環境行政基本研修	2【0】	253
		—	—	環境省職員研修(環境問題史)	3【3】	15
		—	—	環境省職員研修(令和2年度入省職員フォローアップ研修)	2【2】	52
	自然保護官等研修(特別コース) ※新規研修	3	41		—	—
	小計	6	66	小計	22【18】	531
	合計	9	75	合計	181【85】	887

(注)「研修日数」は実日数である。

表3 所属機関別研修修了者数の令和4年度との比較

区分 所属機関	令和4年度		令和5年度	
	修了者数 (人)	構成比 (%)	修了者数 (人)	構成比 (%)
国家公務員	66	97.1	443	49.9
地方公務員	2	2.9	378	42.6
（都道府県職員）	-	0.0	213	24.0
（市区町村職員）	2	2.9	165	18.6
独法等職員	-	0.0	54	6.1
その他	7	0.0	12	1.4
合計	75	100.0	887	100.0

(注)所属機関における「その他」は、海外からの研修生である。

【参考】令和5年度研修日程表(実績)

4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
4月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
	環境省新採用職員80人(集合1日間)・環境行政基本100人																														
5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
6月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
7月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
	動物愛護管理70人(5日間)																														
	環境省職員(課長補佐級)20人(研修所での開催:1日間) (他8事務所にて開催(各10~20人))																														
8月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
8月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
9月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
	特定機器分析Ⅰ(ICP-MS)12人(集合5日間)																														
	特定機器分析Ⅱ①(LC/MS/MS)8人(集合5日間)																														
10月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
10月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
	特定機器分析Ⅱ②(LC/MS/MS)8人(集合5日間)																														
	廃棄物分析10人(集合5日間)																														
11月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
11月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
	アスベスト分析6人(5日間)																														
	※廃リ専攻別(北九州市開催)40人(集合3日間)																														
	産業廃棄物(基礎)70人(集合4日間)																														
	地方公共団体実行計画策定研修30人(5日間)																														
	自然保護官等Ⅱ30人(4日間)																														
12月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
12月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	※日中韓三力国合同環境研修(中国開催)5人(4日間・移動日含む)																														
	水質分析研修36人(集合5日間)																														
1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
	※国際環境協力基本(北九州市開催)30人(集合3日間)																														
	※環境省職員研修(環境問題史)(水俣市開催)15人(3日間)																														
	※環境問題史研修(もやし直し)(水俣市開催)15人(3日間)																														
	自然保護官等Ⅰ25人(4日間)																														
	自然保護官等Ⅲ15人(3日間)																														
2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29		
2月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
	大気分析研修20人(集合5日間)																														
	環境省職員(R2入省フォローアップ)70人(2日間)																														
3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
3月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
	VOCs(水質)8人(集合5日間)																														

注 1 〇は開庁日。  
 2 破線はWEB開催又は他事務所での開催  
 3 ※は研修所以外での開催

**(別添資料)**

**令和5年度**

**各研修の実施要綱及び日程表等**

# 令和5年度地方公共団体実行計画策定研修 実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

地方公共団体は、地球温暖化対策の推進に関する法律（平成10年法律第117号）第21条に基づき、地方公共団体の温室効果ガス削減計画（地方公共団体実行計画）を策定することとされている。このうち、事業者・住民等も含めた区域全体の温室効果ガス削減計画である地方公共団体実行計画（区域施策編）は、小規模な団体を中心に、人員や専門的知見の不足等を理由として計画の策定率が低い傾向にある。一方で、2050年カーボンニュートラルや2030年度温室効果ガス削減目標の達成に向けては、全国の地方公共団体で地方公共団体実行計画（区域施策編）を策定し計画的に脱炭素施策を推進していく必要がある。

このような背景を踏まえ、本研修では、市町村（指定都市及び中核市を除く）において地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく地方公共団体実行計画の策定・改定業務を担当している職員を対象に、地域脱炭素政策や地方公共団体実行計画の制度、計画策定のポイントについて解説等を行うとともに、先進自治体からの事例紹介を行う。併せて、地方公共団体実行計画策定に係るワークショップを、グループワーク形式で行うことなどを通じて、計画策定に必要な基本的な考え方や専門的知識・技術を習得させるとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて相互の啓発及びネットワークの形成を図ることを目的とする。

## 2. 期間及び会場

(1) 期間：令和5年11月27日（月）～令和5年12月1日（金）（5日間）

※期間中は全員合宿制となります。

(2) 場所：

① 講義等：環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3  
TEL 04-2994-9766、FAX 04-2994-9306

② 現地見学：所沢市内及び周辺の再生可能エネルギー施設等

3. 教科内容 3～4頁のとおり

4. 研修予定人数 30名程度

## 5. 受講資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1). 市町村（指定都市及び中核市を除く）において、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく地方公共団体実行計画の策定・改訂に関する業務を担当している係長級程度の職員
- (2). 基本的なPC操作（Word, Excel, PowerPoint等）が可能である者
- (3). 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (4). 所属長の推薦を受けた者

## 6. 研修生の推薦の有無

所属長は、研修生を推薦する場合、別紙様式による被推薦者名簿を添えて、**令和5年10月16日（月）**までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 7. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・ 同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位に基づき調整する場合がある。
- ・ 被推薦者数を調整するに当たっては、過去の他研修受講実績などを考慮する場合がある。
- ・ 地方公共団体実行計画（区域施策編）の未策定団体を優先する場合がある。
- ・ 財政力指数の低い自治体を優先する場合がある。

## 8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。なお、決定した研修生に対しては、研修までに地方公共団体実行計画（区域施策編）策定に必要な所属元の情報（産業・経済構造、地域課題、温室効果ガス排出量、再エネポテンシャル等）を収集する事前課題を課す予定。

## 9. 修了証書の交付

- ・ 受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、

所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。

・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

#### 10. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1). 往復に必要な旅費
- (2). 滞在費

#### 11. 日程

別添2「日程表（令和5年度地方公共団体実行計画策定研修）」のとおり。

#### 12. その他

- (1). 本研修ではPCを用いた演習を行います。PCは当所でご用意しますが、ご自身のPCを使用して研修参加を希望される方はご持参ください。なお、研修ではWord、Excel、PowerPoint等を使用しますので、持参される場合は事前にインストールをお願いします。別紙様式被推薦者名簿に、PC及びポケットWi-Fi持参の有無をご記入ください。
- (2). 「研修受講ガイドブック」（研修受講に当たっての留意事項に関する情報）を環境調査研修所ホームページ（URL <http://www.neti.env.go.jp>）に掲載しておりますので御参照ください。

## 令和5年度地方公共団体実行計画策定研修 教科内容

### 【研修の柱】

1. **オリエンテーション**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **0時間30分**  
本研修趣旨、ワーク内容の説明を受けるとともに他研修生に対して自己紹介を行う。またグループワークの班員を把握する。

2. **個人ワーク**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **6時間10分**  
事前課題で収集した情報や講義を踏まえ、研修生個人にて温室効果ガス排出量の推計・要因分析等を行い、CO2削減目標、再生可能エネルギー導入目標策定等に必要な知識・技術を習得する。  
また、研修全体を通して簡易的な地方公共団体実行計画（区域施策編）を策定する。

3. **グループワーク1**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **5時間20分**  
事前課題、個人ワークで把握した研修生の自治体特徴と各講義受講を経て得た知識を踏まえて各自自治体の施策を検討し、簡易的に地方公共団体実行計画（区域施策編）を策定する。

**グループワーク2**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **2時間30分**  
合意形成の手法について講義を受けた後、地域に再エネ導入の計画が持ち込まれたシチュエーションを想定して地域関係者（住民、自治体職員、事業者、環境保全団体、商工会議所等）役に分かれた協議会の開催、運営をロールプレイング形式で実施する。

※全体を通して研修生同士の交流を活発に行い、相互の啓発・交流の促進を図る。

### 【講義等】

個人ワーク、グループワークに必要な情報のインプット

#### ●講義

1. **【基調講義】脱炭素政策に関する国内外の最新動向について**・・・・・・・・ **1時間0分**  
地球温暖化の現状と科学的知見、脱炭素の動き（世界・国内）、地域脱炭素の必要性・意義、地域脱炭素を支える様々な制度・仕組み等についての理解を深める。

2. **地方公共団体実行計画制度について**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **0時間50分**  
地方公共団体実行計画制度の概要・構成と施行状況の説明、各種支援の講義を受け、実行計画策定の意義や手法、策定に必要なツール、補助制度等の理解を深める。

3. **第三者所有による太陽光発電設備導入について**・・・・・・・・・・・・・・・・ **0時間30分**  
太陽光発電設備に係る第三者所有モデルの概要説明、公共施設等への導入事例の紹介を受け、自らの自治体における太陽光発電設備導入の糸口を見つける。

4. **地域共生型再エネの導入について**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **0時間45分**  
地域共生型再エネ導入の必要性や背景、国や自治体における対策の現状等の説明を受け、地域脱炭素化促進事業制度の理解を深める。

#### ●外部講義

5. **実効性のある地方公共団体実行計画策定に向けて**・・・・・・・・・・・・・・・・ **1時間0分**  
自治体の実効性のある地方公共団体実行計画を策定するための留意点等についての講義を通じ、各々の自治体の計画策定に向けたヒントを得る。

6. **小規模自治体における区域施策編策定の取組紹介**・・・・・・・・・・・・・・・・ **0時間45分**  
実際に地方公共団体実行計画区域施策編を策定した小規模自治体から、策定の背景や流れ、具体的な施策・取組内容等の紹介を受け、計画策定の必要性や技術を学ぶ。

7. **地域新電力の取組紹介**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **0時間45分**  
稼働済み地域新電力会社による自治体と連携した地域脱炭素の取組に係る講義を受け、地域新電力設立の効果や事業者との連携のためのヒントを得る。

8. **地方公共団体が地域脱炭素に取り組む意義と現状**・・・・・・・・・・・・・・・・ **1時間0分**  
地方公共団体が地域脱炭素に取り組む意義や必要性、留意点等とともに先進的に取り組む自治体の活動事例紹介を受け、計画策定のヒントを得る。

9. **再エネ促進区域の設定に向けたゾーニング・合意形成の取組について**・・・・ **1時間30分**  
過年度の計画づくり支援事業で補助を受けた自治体から、再エネ促進区域を設定す

る取組事例の紹介を受け、ゾーニングや合意形成に係る手法・留意点等を学び、自らの自治体に取り入れるヒントを得る。

10. 現地見学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5時間15分  
地域脱炭素の取組事例の現場見学を行うことにより、地域脱炭素の具体的な取組の課題や意義等についてより理解を深める。

●その他

11. その他（開・閉講式）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0時間35分

合計 28時間25分

（注）

- 教科内容は、都合により変更になることがあります。
- 開講式は10時00分から行います。9時30分までに入所して下さい。
- 閉講式は12時35分に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和5年度 地方公共団体実行計画策定研修 日程表

＜研修のゴール：地方公共団体実行計画（区域施策編）策定に必要なスキルを身につける＞

環境調査研修所

	8:50	(昼休み)										17:00	
11/27 (月)	10:30～11:30 (60分) ＜基調講演＞ 脱炭素政策に関する国内外の最新動向について	10:00～10:20 (20分) 開講式	10:30～11:30 (60分) ・地球温暖化の現状と科学的知見 ・脱炭素の動き（世界・国内） ・地域脱炭素の必要性・意義 ・地域脱炭素を支える仕組み	11:45～12:15 (30分) ＜オリエンテーション＞ ・研修趣旨、ワーク内容説明 ・自己紹介、グループ分け	(12:15～13:15)	13:15～14:05 (50分) ＜講義①＞ 地方公共団体実行計画制度について	14:15～15:15 (60分) ＜外部講義①＞ 実効性のある地方公共団体実行計画策定に向けて	15:30～17:00 (90分) ＜個人ワーク①＞ 事前課題で集めた情報をもとに、受講生毎に温室効果ガス排出量の推計・要因分析を行い、CO2削減目標、再生可能エネルギー導入目標を策定する。	環境省 大臣官房 地域政策課 課長補佐 三田	環境省 大臣官房 地域脱炭素政策調整担当参事官室 係長 鎌田	一般財団法人ローカルグッド創生支援機構 事務局長 稲垣 憲治	※1-区域施策編策定にあたっては、各種ツールを活用し、「事務事業、産業構造、温室効果ガス排出量、再生可能エネルギー、地域課題」等の地域の現状を把握、分析しなくてはならないが、事前課題として実施する。	
11/28 (火)	8:50～9:30 (40分) ＜個人ワーク②＞ ・個人ワーク①の続き	9:40～10:10 (30分) ＜講義②＞ 第三者所有による太陽光発電設備導入について	10:20～11:05 (45分) ＜外部講義②＞ 小規模自治体における区域施策編策定の取組紹介	11:15～12:00 (45分) ＜外部講義③＞ 地域新電力の取組紹介	(12:00～13:00)	13:00～14:00 (60分) ＜外部講義④＞ 地方公共団体が地域脱炭素に取り組む意義と現状(仮)	14:10～17:00 (170分) (休憩含む) ＜グループワーク1①＞ 区域施策編の施策をグループ別に検討する	●ワーク内容 ①再生可能エネルギー導入の促進 ②地域の事業者、住民による省エネその他の排出抑制の推進 ③都市機能の集約化、公共交通機関、緑地その他の地域環境の整備・改善 ④循環型社会の形成 ※「テーマ別(教育、観光、福祉、防災等)×脱炭素」の施策をグループ別に検討する ※施策の実行プロセスや体制(事業者の巻き込み方、ターゲットとする補助金、参入を想定する地域ステークホルダー等)についても検討することとする。	環境省 地域脱炭素政策調整担当参事官室	環境省 地域脱炭素政策調整担当参事官室 係長 小玉	島根県 邑南町 統括主任 藤田 浩司	たんたんエナジー株式会社 代表取締役 木原 浩貴	(財)地球環境戦略研究機関 プログラムディレクター 藤野 純一
11/29 (水)	8:50～9:20 (30分) ＜グループワーク1②＞	9:30～11:30 (120分) (休憩含む) ＜グループワーク1③成果発表＞ 施策発表を通じ、多様な視点からの脱炭素について理解を深める。	●ワーク内容 ・グループ毎に15分の発表を行う。(6グループ×15分=90分) ・質疑応答(15分)	(11:30～12:30)	(12:30～17:25) ＜現地見学＞ 地域脱炭素の取組事例の現場見学を行うことにより、地域脱炭素の具体的な取組の課題や意義等についてより理解を深める	12:20 ロータリー集合 12:30 出発	13:00～13:25 北岩岡太陽光発電所	13:55～14:25 メガソーラー所沢	15:15～15:35 YOT-TOKO	15:40～15:55 エア・リネード所沢池	16:05～17:05 東部グリーンセンター	水素ステーション	(車中からフロントソーラー所沢見学)
11/30 (木)	8:50～9:20 (30分) ＜個人ワーク③＞	9:30～10:15 (45分) ＜講義③＞ 地域共生型再エネの導入について	10:30～12:00 (90分) ＜外部講義⑤＞ 再エネ促進区域の設定に向けたゾーニング・合意形成の取組について	(12:00～13:00)	13:00～14:30 (90分) ＜グループワーク2①＞ 地域共生型再エネを導入する際に必要な地域の合意形成について学ぶ【事前準備編】	●ワーク内容 ・地域に再エネ導入の計画が持ち込まれたシチュエーションにおいて、如何に地域で合意形成を図るかを、架空の地域協議会を設定してロールプレイング形式で行う ・自治体職員役、民間事業者役、住民役、環境保全団体役、商工会議所役等に分かれる ・2～3グループ合同で行う ・グループワーク④での実践に向けた準備パート	14:45～15:45 (60分) ＜グループワーク2②＞ 地域共生型再エネを導入する際に必要な地域の合意形成について学ぶ【実践編】	●ワーク内容 ・グループワーク③の続き ・ロールプレイングで実際に協議会を開催する	●ワーク内容 ・事前課題で収集した情報、ワーク①、②で設定したCO2排出量の推計結果や再エネ導入目標に加え、グループワークの成果から各自治体に適した具体的施策を選択し、統合・整理の上で自治体ごとの独自の区域施策編を策定する。 ・5日目のワークで行う調査、作業内容を洗い出す ※区域施策編の先行事例を用意しておく	環境省 地域脱炭素政策調整担当参事官室 係長 牧野	北海道せたな町まちづくり推進課 課長 阪井 世紀 大阪府能勢町産業建設部地域振興課 課長 古畑 まき 岩手県宮古市エネルギー・環境部エネルギー推進課 主事 田代 風輝		
12/1 (金)	8:50～9:50 (60分) ＜個人ワーク④＞ ・個人ワーク③の続き	10:00～11:40 (90分) ＜ワーク成果発表＞ 目標・発表を通じ、多様な視点からの脱炭素について理解を深める。	●ワーク内容 ・当日に事務局が指名した6名に区域施策編策定成果を1人10分程度で発表してもらう。10分×6人=60分 その後、全体からの質疑応答(20分程度)を行う。	11:50～12:10 (20分) ＜研修の講評＞	12:20～12:35 (15分) 閉講式	成果発表へのコメント、今後の脱炭素施策へのアドバイス	環境省 大臣官房 地域脱炭素政策調整担当参事官 木野 修宏						

○使用教室：本館3階講堂(予定)

注) 現地見学について、荒天時は見学の一部を中止し、研修所におけるワーク等に変更する場合があります。小雨の場合は実施しますので、雨具等をご持参ください。また、一部未舗装道路を歩きますので、現地見学は歩きやすい靴でご参加ください。  
最終日の閉講式終了時刻は12:35を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。  
帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。  
参加にあたっては、「研修受講ガイドブック」(環境調査研修所HPに掲載)をお読みください。

## 第21回日中韓三カ国合同環境研修 募集要項

### 1. 目的及び概要

本研修は、平成11年から始まった日中韓三カ国の環境大臣会合で、日本、中国、韓国が、「環境共同体」であることの意識の向上を図る必要があるという合意がなされたことを受けて、第1回（平成13年度）日本の環境研修センター（現：環境調査研修所）での実施を皮切りに三カ国の合同プロジェクトとして毎年持ち回りで開催しているものです。令和元年度は日本、令和4年度にはオンライン（韓国主催）で開催されました。

本年度は中国が主催し、令和5年12月6日（水）から12月9日（土）（移動日含む）の日程で、浙江省寧波市奉化区（中国）において研修を行います。

### 2. 期間及び開催地：

(1) 期間：令和5年12月6日（水）から12月9日（土）まで（4日間、移動日を含む）

※期間中は中国政府の用意したホテルでの宿泊となります。

(2) 開催地：中華人民共和国浙江省寧波市奉化区

3. 研修予定人員：日本から5名（予定）

（韓国からは5名、中国からは10名（予定））

4. 使用言語：中国語、韓国語、日本語、英語

※研修プログラムにおいては、研修生は母国語で発言し、主催者（中国）が中国語への同時通訳を用意する予定（韓国研修生にも同様の通訳が用意される予定）。研修期間中の研修生間の交流は英語等にて行っていただきます。

### 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 国又は地方公共団体において下記研修テーマに関連する環境行政分野に従事している職員（過去従事していた者も含む）

テーマ：地域レベルでの低炭素な開発の促進※

Promoting Low Carbon Development at Local Level

※ 本年度のテーマは日中韓三カ国が共通的に扱えるテーマとして設定しているため、脱炭素を推進する日本政府としての立場とは異なるテーマ設定となっている。本年度主催の中国側からは各国の環境行政の立場を尊重するとの見解を得ていることから、日本側からは低炭素というキーワードにこだわらず、脱炭素（Decarbonized）に読み替えて研修を受講していただくことを推奨する。

(2) 3年以上、公務員としての実務経験を持つ者

(3) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(4) 所属長の推薦を受けた者

### 6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合は、別紙様式による被推薦者名簿を添え10月19日（木）までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知願います。

なお、送付は電子での提出を基本とするとともに、2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を明示願います。

【提出先】：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

※研修生の航空券手配等を受託している事業者（環境省発注）に対し、参加予定の研修生情報

をお伝えすることを予定しておりますので、予めご了承ください。

#### 7. プレゼンテーションの準備等

研修プログラムに、【テーマ：地域レベルでの低炭素（脱炭素）な開発の促進】に関する各国プレゼンテーションがあります。研修生は、研修前にプレゼンテーションの準備をする必要があります。プレゼンテーションの詳細なテーマや時間、締め切り等は研修生決定後、研修生に連絡します。なお、プレゼンテーションにおける発言言語は日本語、スライドについては英語使用を想定しています。

#### 8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知します。

#### 9. 修了について

所定の課程を修了した者に対して、修了証書を交付します。研修受講の結果については、研修修了後、所属長に通知します。

#### 10. 経費

- (1) 受講料は無料です。
- (2) 研修生居所から最寄りの国際空港までの交通費及び日当については、研修生所属機関の負担となります。
- (3) 海外航空券代金については環境省が負担します。（国の職員については各機関の負担となります）
- (4) 中国滞在中の宿泊場所、食事については、中国政府が用意します。

#### 11. 留意事項

- (1) 国以外の機関・団体等所属の研修生については、研修生決定後、速やかに査証手続きに入る予定です。査証手続きの際、研修生は査証手続きに必要な一定期間において、有効な一般旅券を所持している必要がありますので、その点ご承知おきください。
- (2) 国以外の機関・団体等所属の研修生については、中国入国のための査証手続きにつきまして、環境省負担による代行を予定しておりますが、最新の状況により変更があり得ますので、ご了承ください。
- (3) 本募集要項の情報につきましては、現状の内容となります。本研修は国際研修であるという性質から、日程等詳細につきましては、変更が生じ得ますこと、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先 環境省環境調査研修所教務課 内海、阿部 TEL:04-2994-9766 E-mail:KYOMU_KA@env. go. jp
--

## (参考)

### 本研修を企画した背景

日本・中国・韓国の三カ国は、地域的にも、歴史的にも緊密な関係を有しており、また、大気、海洋等を通じて環境問題も共有しています。この三カ国が地域内のみならず地球規模の環境問題に関し、率直な意見交換を行い協力を強化していくため、1999年以来、日中韓三カ国環境大臣会合（TEMM）を行っています。

日中韓三カ国合同環境研修は、環境大臣会合において、日本、中国、韓国が「環境共同体」であることの意識の向上を図る必要があるという合意がなされたことを受け、三カ国の合同プロジェクトとして合意されたプロジェクトの一つです。

- ①第一回大臣会合（平成11年1月）…三カ国の環境共同体意識の向上の必要性を確認
- ②第二回大臣会合（平成12年2月）…「日中韓三カ国の環境共同体意識の向上\*」プロジェクトの一つとして三カ国の環境行政に携わる公務員の合同研修を行うことを確認。

#### \*「日中韓三カ国の環境共同体意識の向上」について

日中韓の三カ国は、地域的に同じ大気・海域・自然環境条件等を有している。したがって、環境悪化の原因、環境への影響、環境対策の基盤、更には環境対策の効果も共有している。このような事実を三カ国の人々が常に意識し、三カ国が協力して問題に対処していくという共通認識を持つことが、日中韓三カ国のみならず、地球全体の環境問題の解決に重要である。第一回日中韓三カ国環境大臣会合の際に、こうした意識の形成を図る必要性が認識されました。

また、平成27年度に開催されたTEMM17では、今後5年間の三カ国の協力を定めた「環境協力に係る日中韓三カ国共同行動計画」が策定されました。同行動計画において、この合同研修の継続的实施が定められました。その後のTEMM22で採択された令和3年度から5年間の計画である新しい「環境協力に係る日中韓三カ国共同行動計画」においても、同趣旨は引き継がれています。

### 研修の実施機関

研修の企画・実施は、各国の以下の三つの実施機関が協力して行っています。

- 日 本 ○環境省環境調査研修所
- 中 国 ○中華人民共和国環境保護部宣伝教育中心
- 韓 国 ○大韓民国環境部国立環境人力開発院

本年度については中国が主催いたします。本研修は、平成13年度に第1回研修を開催し、毎年1回、日本、韓国、中国が三カ国持ち回りで開催することとしています。

### **合同研修の目的**

この研修は、日中韓三カ国の公務員が、三カ国の環境の現状、各国が抱えている環境に関する課題及びその対策等についての情報や認識を共有し、ひいては今後の各国及び各国内の地方レベルでの環境行政において、より広い視野からの施策の展開を促進することを目的としています。

### **受講対象者**

日本、中国、韓国で現在環境行政に携わっている国家及び地方公務員で、政策決定を担う業務に従事している、または将来従事することが期待される者を対象とします（研究職の方は対象外です）。

### **研修の構成**

- (1) 日中韓三カ国の地域の環境の状況等についての相互理解の醸成を目的として、今回は「**地域レベルでの低炭素（脱炭素）な開発の促進**」をテーマとして研修を実施します。
- (2) 研修員によるグループディスカッション等により、研修生相互間での情報及び意見交換を促すものとします。
- (3) 現地視察として、テーマに関連する施設等の見学を行う予定です。

※日中韓三カ国環境大臣会合については、下記の環境省ウェブサイトをご参照ください。  
[https://www.env.go.jp/earth/coop/temm/introduction\\_j.html](https://www.env.go.jp/earth/coop/temm/introduction_j.html)

これまでの実績等

回数	年度	開催国	期間	研修テーマ	研修生数
第1回	13	日本	11.27～ 12.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中韓各国の環境行政に関する行政組織体制と業務の概要</li> <li>淡水域の水質汚染の現状と課題</li> </ul>	日本：10名 韓国、中国：各5名
第2回	14	韓国	12.2～ 12.11	<ul style="list-style-type: none"> <li>大気保全</li> <li>水質保全</li> <li>廃棄物管理</li> </ul>	韓国：9名 日本、中国：各5名
第3回	15	中国	12.1～ 12.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質管理</li> <li>廃棄物管理</li> <li>北東アジア地域における国際環境協力</li> </ul>	中国：10名 日本、韓国：各5名
第4回	16	日本	11.21～ 11.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環型社会の構築(廃棄物・リサイクル対策)</li> <li>地球温暖化対策</li> </ul>	日本：10名 韓国、中国：各5名
第5回	17	韓国	11.20～ 11.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市大気汚染</li> <li>循環型社会</li> </ul>	韓国：10名 日本：5名 中国：3名
第6回	18	中国	11.21～ 11.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環型経済(3R)政策及び法制度について</li> <li>自然環境保全及び再生の手法について</li> </ul>	中国：8名 日本、韓国：各5名
第7回	19	日本	11.26～ 11.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学物質管理</li> <li>ESD(持続可能な開発のための教育)・環境教育/環境意識の普及・啓発</li> </ul>	日本：10名 韓国・中国：各5名
第8回	20	韓国	11.24～ 11.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物のエネルギー資源化に係る政策</li> <li>環境負荷の少ない廃棄物管理(3Rを含む)</li> </ul>	韓国：9名 日本・中国：各5名
第9回	21	中国	11.23～ 11.27	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性の保護と持続可能な利用の推進に係る政策及び法制度</li> <li>生物多様性の保護と持続可能な利用の推進に係る普及啓発及び教育</li> </ul>	中国：10名 日本、韓国：各5名
第10回	22	日本	11.22～ 11.26	<ul style="list-style-type: none"> <li>水環境保全</li> <li>淡水域における水質汚染の現状と課題</li> <li>地下水汚染対策</li> </ul>	日本：8名 韓国：5名 中国：4名
第11回	23	韓国	11.21～ 11.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素、グリーン成長</li> <li>グリーン成長に係る教育とエコラインスタイル実践戦略</li> <li>グリーン技術開発とグリーン産業振興計画</li> </ul>	韓国：8名 日本：5名 中国：3名
第12回	24	中国	11.26～ 11.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>湖の環境保全</li> <li>湖の環境保全政策</li> <li>湖の環境保全に係る教育・普及啓発</li> </ul>	中国：8名 韓国：5名 日本：2名

第13回	25	日本	11.18～ 11.22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な都市の大気環境</li> <li>・大気汚染のモニタリング、防止及び規制のための技術</li> <li>・大気汚染防止に係る施策</li> </ul>	日本：7名 韓国、中国：各5名
第14回	26	韓国	11.2～ 11.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の保全</li> </ul>	韓国：6名 日本、中国：各5名
第15回	27	中国	11.8～ 11.14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保護に関する公衆参加の促進</li> </ul>	中国：8名 韓国、日本：各5名
第16回	28	日本	11.6～ 11.12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源循環利用/3R</li> </ul>	日本：10名 韓国、中国：各5名
第17回	29	韓国	10.15～ 10.21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な成長のための生物多様性</li> </ul>	韓国：5名 中国：4名 日本：5名
第18回	H30	中国	11.18～ 11.23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン開発と市民参加</li> </ul>	中国、日本：各4名 韓国：5名
第19回	H31 (R1)	日本	9.15～ 9.21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における環境管理</li> </ul>	日本：8名 中国：5名 韓国：0名
第20回	R4	韓国	R5 2.14～ 2.17 (オンライン形式)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源循環と廃棄物管理</li> </ul>	日本：2名 中国：3名 韓国：4名

# 令和5年度動物愛護管理研修実施要綱【最新版】

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

人と動物の共生社会の実現にあたり、一部の不適正な動物取扱業者や増加する動物虐待事案への適切な対応、鳥インフルエンザの適切な防除措置、犬猫へのマイクロチップの登録等事務や登録促進、災害時の避難所におけるペット同行避難の受入れ体制整備、野良猫による人の生活環境被害の防止など、動物の愛護及び管理に係る様々な取組が行政機関や職員において求められている。

このような背景から、本研修は、国及び地方公共団体等において動物愛護管理に関する業務を担当している職員が、動物愛護管理を巡る課題と基本的な考え方、ペット問題に関する様々な取組等業務実施に必要な専門的知識を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて相互啓発及びネットワーク形成を図ることを目的として実施する。

## 2. 期間及び会場

(1) 期間：令和5年7月24日（月）から7月28日（金）まで（5日間）

※期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 会場：

①講義等：環境調査研修所（〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

TEL04-2994-9766 FAX04-2994-9306）

②現地見学：多摩動物公園（東京都日野市程久保7-1-1）

## 3. 教科内容

次頁のとおりとする。

## 4. 研修予定人員

70名程度

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 国において動物愛護管理又は自然環境業務を概ね2年以上経験している者及び地方公共団体等において動物愛護管理業務を概ね2年以上経験している者。

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者。

(3) 所属長の推薦を受けた者。

## 6. 研修生推薦の有無

所属長は、研修生を推薦する場合、別紙様式による被推薦者名簿を添えて、令和5年6月23日（金）までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 7. 行政事例の作成

研修生が日々抱えている問題事例を共有し、事例と問題の理解を深め、情報を交換し、問題解決の糸口を探る等により、今後の業務遂行に資するとともに、研修生相互の啓発、交流を図ることを目的として「行政事例発表」を実施する予定。受講決定者に様式を送付するため、行政事例を必ず作成させたい。環境調査研修所まで提出すること。なお、詳細や不切等については別途連絡する。

## 8. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位を留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、自治体を優先させていただく場合がある。
- ・被推薦者数を調整するに当たっては、過去の受講実績などを考慮する。

※お断りした被推薦者に対し、希望があれば、何らかの方法で、研修資料を共有する予定。

## 9. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

## 10. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 11. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

### （1）往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

### （2）滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については日額旅費を環境調査研修所から支給する。

## 12. 日程について

別添2「日程表（令和5年度動物愛護管理研修）」のとおり。

<令和5年度動物愛護管理研修／教科内容>

教科目	時間
<b>I 1日目</b>	
1. 動物愛護管理行政概論（関連法等）	1時間30分 動物愛護管理の意義や法制度、課題や展望について知見を得る。
2. 地域猫の対策事例	1時間30分 野良猫による生活環境被害の防止と動物愛護の両立に根ざした地域猫活動に関する取組事例や工夫点、課題について知見を得る。
3. ペット災害対策	1時間30分 災害時におけるペットの同行避難や自治体における受入れ体制について取組事例や工夫点、課題について知見を得る。
<b>II 2日目</b>	
4. 動物愛護管理法と動物虐待について	30分 動物愛護管理法における罰則規定等、動物虐待等に関する基本事項について知見を得る。
5. シェルターメディスン概論	1時間 シェルターに特化した獣医療としてのシェルターメディスンを理解し、シェルター以外の地域の動物問題についても知見を得る。
6. 感染症管理概論	1時間 シェルターでよくみられる主要な感染症について理解し、多頭飼育状態で感染症が発生した際の感染制御についての知見を得る。
7. 感染症管理各論	1時間 シェルターでの主要感染症について、具体的な対応策についての専門的知見を得る。
8. 動物福祉の評価	1時間 動物福祉について獣医学的に理解し、施設、管理、動物の所見を見て動物福祉の評価ができるように知見を得る。
9. シミュレーション実習	1時間10分 シェルター内で感染症が発生した際の実地的訓練。
<b>III 3日目（現地見学）</b>	
10. 飼養鳥にかかる鳥インフルエンザ対応	4時間10分 動物園等における飼養鳥に関して、鳥インフルエンザが発生した際の適切な対応や防除のための適切な措置について知見を得る。
<b>IV 4日目</b>	
11. 犬猫マイクロチップの登録事務や情報活用	1時間30分 犬猫へのマイクロチップ登録等義務化について、法制度や登録等の実態と課題、情報活用について知見を得る。
12. 飼養管理基準及び動物取扱業対応	1時間30分 飼養管理基準について、法制度や現場での運用実態及び課題や、不利益行政処分実施要領の作成等、自治体での動物取扱業者への取組事例に関する知見を得る。
13. 犬猫の適正な譲渡手法	3時間 自治体に収容された犬猫の譲渡について、基本的な考え方や適正な譲渡のポイント、譲渡適正の評価方法、マッチングの重要性、他自治体における良事例に関する知見を得る。
<b>V 5日目</b>	
14. グループワーク（不適正な動物取扱業者への対応）	4時間30分 不適正に動物を取扱う動物取扱事業者に対する適切な対応をグループワークで検討し、研修で得た専門的知見の活用を図るとともに、研修生間の交流を通じて相互啓発及びネットワーク形成を図る。
<b>VI その他</b>	
15. その他（開・閉講式、オリエンテーション、事例発表）	2時間45分
	合計 27時間35分

(注)

- 教科内容および講義時間は、都合により一部変更になることがあります。
- 開講式は10時45分より行いますので、10時15分までに入所してください。
- 閉講式は15時45分に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機や列車の時間等により、最終日の講義や閉講式等を欠席することは認めません。

令和5年度 動物愛護管理研修 日程表【最新版（7/11時点）】

(別添2)

環境調査研修所

	8:50	9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	12:45 13:45 (昼休み)	15:15 15:30 (休憩)	17:00	
7/24 (月)			(10:45～11:15) 開講式/オリエンテーション	11:15～12:45 動物愛護管理行政概論 【東京農工大学 対馬 美香子】 【環境省自然環境局総務課 野村 環】	13:45～15:15 地域猫の対策事例 【新宿区人と猫との調和のとれたまちづくり連絡協議会顧問 高木 優治】	15:30～17:00 ペット災害対策 【NPO法人アナイス 平井 潤子】		
7/25 (火)	8:50～9:30 事例共有	9:30～10:00 動物愛護管理法と動物虐待について 【環境省動物愛護管理室 山下 瑠美】	10:15～11:15 シェルターメディスン概論 【日本獣医生命科学大学 田中亜紀】	11:30～12:30 感染症管理概論 【日本獣医生命科学大学 田中亜紀】	12:30～13:30 昼休み	13:30～14:30 感染症管理各論 【日本獣医生命科学大学 田中亜紀】	14:45～15:45 動物福祉の評価 【日本獣医生命科学大学 田中亜紀】	15:50～17:00 シミュレーション実習 【日本獣医生命科学大学 田中亜紀】
7/26 (水)	8:30～ (バス移動・多摩動物公園へ)	動物園における鳥インフルエンザ対応（現地見学）				15:40～ (バス移動・環境調査研修所へ)		
		10:10～10:30 【環境省動物愛護管理室 串田 卓弥】	10:40～12:10 【北海道大学 迫田 義博】	12:10～13:10 昼休み	13:10～15:30 【多摩動物公園 鈴木 仁、山口 歩】			
7/27 (木)	8:50～9:30 事例共有	9:30～11:00 犬猫マイクロチップの登録事務や情報活用 【環境省動物愛護管理室 佐藤 暢彦】	11:15～12:45 飼養管理基準及び動物取扱業対応 【環境省動物愛護管理室 吉澤 泰輔】	13:45～17:00 犬猫の適正な譲渡手法 【軽井沢ドッグビヘイビア 山下 國廣】 【フリーランス編集ライター 山賀 沙耶】 【岐阜県健康福祉部生活衛生課 古田 直子】 【千葉県保健福祉局医療衛生部生活衛生課 田中 大地】 【環境省動物愛護管理室 野田 佳代子、佐藤 啓一郎】				
7/28 (金)	8:50～9:30 事例共有	9:30～15:15 (昼休み12:20～13:20) グループワーク テーマ：不適正な動物取扱業者への対応 【長野県佐久保健福祉事務所 食品・生活衛生課 高井 剛介】 【大阪府動物愛護管理センター管理指導課 小谷 正之】 【環境省動物愛護管理室】				(15:30～) 閉講式		

○使用教室： 講堂（本館3階）

○注意事項： 最終日の閉講式終了時間は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度産業廃棄物対策研修（基礎）実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

産業廃棄物の適正処理の推進には、産業廃棄物行政の実務を担い、産業廃棄物処理業者を指導・監督・育成する立場にある担当者の対処能力を向上させることが重要である。

このような背景から、本研修は、国及び地方公共団体等において産業廃棄物対策業務を担当する職員に対し、業務遂行に必要な基本的な法的知識等を習得させるとともに、研修生間の交流を通じて相互啓発及びネットワーク形成を図ることを目的として実施する。

## 2. 概要

本研修は、期間内に講義動画をすべて視聴し、指定された日時に環境調査研修所に集合し実施する。

また、カリキュラムの一部に含まれている講義動画については、環境調査研修所において開催する集合研修に参加できないことから講義動画の視聴のみを希望する者（以下「動画視聴希望者」という。）に対しても公開する。詳細については「13. 動画視聴のみを希望する場合」を参照。

※以下「研修」「研修生」とは動画視聴及び集合研修両方に参加する者を前提とし、講義動画視聴のみ場合は研修としては取り扱わない。

## 3. 期間及び会場

### (1) 期間

会場に集合する期間：令和5年11月7日（火）～11月10日（金）

講義動画視聴期間：令和5年10月23日（月）～11月17日（金）

※講義動画は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし視聴していただきます。

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 会場：環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3  
TEL 04-2994-9766

## 4. 教科内容

3頁のとおりとする。

## 5. 研修予定人員

70名程度

## 6. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 国及び地方公共団体等において**産業廃棄物対策業務を担当している職員**

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(3) 所属長の推薦を受けた者

(4) YouTube 環境調査研修所公式チャンネル（※）へのアクセスが可能な者

（※）<https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfgGJ9MS2nLCFg1Q>

## 7. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙1「被推薦者名簿」を添えて、令和5年9月4日（月）までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

なお、2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

【提出先】教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 8. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位を留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先させていただく場合がある。
- ・被推薦者数を調整するに当たっては、過去の受講実績などを考慮する。

## 9. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、7の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

なお、研修生の決定にかかわらず、講義動画のURLは別途被推薦者に連絡する。

## 10. 研修修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。  
※講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートは11月24日（金）までに教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)へ電子メールにて送付すること。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 11. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

### （1）往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

### （2）滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については日額旅費を環境調査研修所から支給する。

## 12. 日程について

別添2「令和5年度 産業廃棄物対策研修（基礎） 日程表」のとおり。

## 13. 動画視聴のみ希望する場合

6. 研修を受ける資格（1）、（2）、（4）を満たす者であって被推薦者でない者のうち、都合により集合研修に参加できないが、動画視聴希望者がいる場合は、別紙2「動画視聴希望担当者登録フォーム」を令和5年9月29日（金）までに必着するよう提出すること。その際、環境調査研修所所長あて文書は要さない。なお、別紙2の作成にあたっては、動画視聴希望者が所属する組織・機関の担当者を登録すること。

【提出先】教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

動画視聴期間は、3（1）に記載の講義動画視聴期間と同様とし、動画視聴希望者の定員は設けない。講義動画のURLは、別紙2を提出した組織・機関宛に後日連絡するため、組織・機関内でURLを共有し視聴いただく。なお、講義動画視聴のみの場合は研修としては取り扱わないため、10.に記載の修了の状態の通知は行わないが、動画視聴者は後日送付するアンケートに回答し、指定する期日までに教務課（[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)）に提出すること。

\*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://net1.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

## <産業廃棄物対策研修(基礎) 教科内容 >

### ○講義動画一覧

配信される以下の講義動画を令和5年10月23日(月)～11月17日(金)の間に視聴してください。

- ・本研修の概要、産業廃棄物に関する最近の動向(※集合研修開始前までに視聴すること)・・・1時間
- ・行政処分の指針等重要通知・・・1時間
- ・行政不服審査・・・1時間
- ・会計学の基礎知識・・・1時間
- ・排出事業者責任・・・1時間

### I 廃掃法の基礎的な法的知識

廃棄物該当性判断や施設設置許可審査等に関する法的知識を体系的に学び、産業廃棄物対策業務に必要な基礎的な法的知識等を整理する。

1. 廃掃法概論・・・1時間30分
2. 廃棄物該当性・・・1時間30分
3. 業許可審査・・・1時間30分
4. 施設設置許可の審査・・・1時間30分
5. 処理基準・・・1時間30分
6. 施設基準・・・1時間30分

### II 不法投棄・不適正処理事案の発見・対応

不法投棄・不適正処理事案の発見・対応のために必要な法的知識を体系的に習得し、実務に対応するためのスキルを向上させる。特に立入検査の際の実務上の留意点の習得、排出事業者責任の追及のための法的知識等の習得により、実際の不適正処理事案を適切な発見し対応するための法的知識等の理解を深める。

1. 不適正処理事案の端緒・・・1時間30分
2. 不法投棄・不適正処理事案の端緒・・・1時間30分
3. 改善命令・・・1時間30分
4. 措置命令・・・1時間30分
5. 原状回復・・・1時間30分

### III 事例紹介・・・1時間30分

IからVで学んだ法的知識等を適用する典型的事例を紹介し、実際の産業廃棄物行政実務に習得した法的知識等を適用し、適切に対応する能力を高める。

### IV 産廃行政と暴力団対策・・・1時間30分

廃棄物行政と関連の多い暴力団の状況について理解を深め、業務の遂行に資する。

### V その他(開・閉講式、オリエンテーション等)・・・35分

合計 25時間5分

(注) ○教科内容は、都合により一部変更になることがあります。

○開講式は13時15分より行いますので、12時45分までに入所してください。

○閉講式は15時30分に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

○帰路の航空機や列車の時間等により、最終日の講義や閉講式等を欠席することは認めません。

## 令和5年度 産業廃棄物対策研修(基礎) 日程表

	月 日	9:30～11:00	11:15～12:45		13:45～15:15	15:30～17:00						
研修所にて実施	10月23日(月)～11月17日(金)	動画視聴【各自】 ・本研修の概要、産業廃棄物に関する最近の動向(環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課 課長補佐 栗栖 雅直) ・行政処分の指針等重要通知(環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課 課長補佐 三原 利教) ・行政不服審査(環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課 主査 池田 恵里香) ・会計学の基礎知識(エース会計事務所 公認会計士・税理士 山田 咲道) ・排出事業者責任(橋元綜合法律事務所 代表弁護士 鈴木 道夫)										
	11月7日(火)				13:15～13:35	13:45	15:15	15:30	17:00			
	11月8日(水)				9:30	11:00	11:15	12:45	13:45	15:15	15:30	17:00
	11月9日(木)				9:30	11:00	11:15	12:45	13:45	15:15	15:30	17:00
	11月10日(金)				9:30	11:00	11:15	12:45	13:45	15:15	15:15～15:30	17:00
		<b>処理基準</b> 長野県環境部資源循環推進課 企画幹(廃棄物対策担当) 胡桃澤 博司	<b>施設基準</b> 愛知県環境局資源循環推進課 課長補佐 桑山 知之	<b>不法投棄・不適正処理事案の対応</b> <small>(立入検査・報告徴収から事実認定、是正指導、解消・改善まで)</small> 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 専門家委員 岩城 吉英	<b>業許可審査</b> 横浜市資源循環局事業系廃棄物対策部事業系廃棄物対策課 担当課長(許可指導) 田島 禎之	<b>廃掃法概論</b> 京都府総合政策環境部 技監 松山 豊樹	<b>廃棄物該当性</b> BUN環境課題研修事務所 主宰 長岡 文明	<b>事例紹介</b>	<b>原状回復</b> 長野県環境部水大気環境課 課長 是永 剛			
		<b>改善命令</b> 松山市都市整備部道路河川管理課 副主幹 徳永 努	<b>措置命令</b>	<b>昼休み</b>	<b>開講式</b>	<b>閉講式</b>						

○動画視聴 ・講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネル(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)にアクセスして視聴していただけます。令和5年10月23日(月)から11月17日(金)までが視聴可能期間となります。

※講義動画「本研修の概要、産業廃棄物に関する最近の動向」については、集合研修開始前に動画を視聴すること。

○使用教室 本館3階 講堂

\*注意事項

1. 日程は都合により一部変更する場合があります。
2. 最終日は15:30終了予定となっておりますが、講義時間の延長等により遅れる場合があります。帰路の交通機関の利用等による閉講式の欠席は認めません。
3. 参加にあたっては、「研修ガイドブック」(環境調査研修所Webページに掲載)をお読みください。

# 令和5年度廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース) 実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

国及び地方公共団体等において廃棄物・リサイクル行政に一定(概ね1年以上)の経験があり、実務の中心となっている職員が、循環型社会形成に向けた実践的な取組が行われている現場の見学を通して、循環型社会の形成を中心とした廃棄物・リサイクル対策に係る業務遂行に必要な専門的知識を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて相互啓発及びネットワーク形成を図ることを目的とする。

## 2. 期間及び会場

本研修は、指定の期間に講義動画を全て視聴した上で、北九州市に集合し実施する。

### (1) 期間

全体：令和5年11月6日(月)～11月17日(金)

動画視聴期間：令和5年11月6日(月)～11月14日(火)

集合研修期間：令和5年11月15日(水)～11月17日(金)

### (2) 集合研修の実施場所

#### ① 講義等

タカミヤ環境ミュージアム (北九州市八幡東区東田2丁目2-6)

北九州エコタウンセンター (福岡県北九州市若松区向洋町10番地20)

KMMビル (福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目14-1)

#### ② 現地見学

北九州エコタウン (北九州市若松区響灘地区)

#### ③ 宿泊先

アパホテル小倉駅前 (福岡県北九州市小倉北区浅野2-14-65)

## 3. 教科内容 3頁のとおり

## 4. 研修予定人数 40名程度

## 5. 受講資格

次の各号のいずれかにも該当する者とする。

- (1) 国及び地方公共団体等において廃棄物・リサイクル対策業務(循環型社会の形成に係るもの)を担当している職員
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者

※所属機関の端末から、研修所 YouTube チャンネルへのアクセスが可能であることを確認の上で申し込むこと。

## 6. 研修生の推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による被推薦者名簿を添えて、**9月15日(金)《必着》**までに、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 7. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位に留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先する場合がある。
- ・被推薦者数を調整するに当たっては、過去の受講実績等を考慮する。

## 8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

## 9. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了又は未修了）については、研修終了後、所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 10. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1) 往復に必要な旅費（ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する）
- (2) 滞在費（ただし、宿泊施設は環境調査研修所が借り上げるため、費用負担は不要。国家公務員（独立行政法人の職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。）

## 11. 日程

別添「日程表（令和5年度廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース)」のとおり。

## 12. 研修実施方法

- ・受講生は、環境調査研修所がYouTube 環境調査研修所公式チャンネル（※）に掲載する講義動画を集合研修開始日前日までに視聴する。配信のURLは受講生決定後、対象者に通知する。
- ・講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートの提出先、提出期限は別途連絡する。
- ・集合研修は福岡県北九州市内において行う。集合場所・時間等は受講決定後に連絡する。

（※）YouTube 環境調査研修所公式チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfGJ9MS2nLCFg1Q>

【動画講義】については、令和5年11月6日(月)～11月14日(火)の期間に、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する動画を視聴することにより受講してください。

### I 循環型社会の形成に向けた基本理念と方策について理解する

#### 1. 【動画講義】基調講義

循環型社会の形成－我が国の廃棄物処理の変遷と循環型社会に求められる処理技術－

・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間30分

循環型社会形成の意義や歴史的経過、現状と今後の展望等について理解を深める。

#### 2. 【動画講義】循環型社会形成に向けた施策の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間30分

循環型社会の形成に向けた基本計画及び諸制度等について、仕組みや個別施策との関係性等について理解を深める。

### II 循環型社会構築のための市民との協働について学ぶ

#### 3. 【動画講義】循環型社会の形成に向けた北九州市の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間30分

北九州市における3R推進活動の具体例を学ぶ。

#### 4. 【動画講義】循環型社会形成に向けた市民活動等の取組の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間30分

循環型社会形成に向けては、市民を含めた地域の広範な関係者の連携・参画が必要なことから、市民活動についての現状と課題を理解し、協働の重要性を知る。

#### 5. 【動画講義】循環型社会形成に向けたリサイクル産業の現状と課題

－木材・プラスチック再生複合材(WPRC)事業を中心に－・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間30分

循環型社会形成に向けた資源循環の促進に当たっては、資源のリサイクルが重要であるところ、実際のリサイクル産業の現状と課題を学ぶ。

### III リサイクルの現場を知る

#### 6. 現地見学(講義含む：北九州エコタウン他)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8時間35分

各種リサイクル事業者の見学・講義を通して、リサイクルの現場を知る。

### IV 研修成果の整理・確認を図る

#### 7. グループ討議・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5時間20分

グループ討議により、研修成果の整理・確認を図る。

#### 8. その他(開・閉講式、オリエンテーション)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0時間50分

合計22時間15分

(注)都合により一部変更になることがあります。

※開講式は9時30分から行います。

※最終日の閉講式終了時刻は12時30分頃を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

## 令和5年度廃棄物・リサイクル専攻別研修(循環型社会実践コース) 日程表

別添 2  
環境調査研修所

11/6(月) ～11/14 (火)	<p>【動画視聴期間】受講生は、以下の講義を動画配信(YouTube環境調査研修所公式チャンネル)により各自受講する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【基調講義】循環型社会の形成 -我が国の廃棄物処理の変遷と循環型社会に求められる処理技術-(九州大学大学院工学研究院環境社会部門 教授 島岡 隆行)</li> <li>・循環型社会形成に向けた施策の概要(環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室室長補佐 湯山 桃子)</li> <li>・循環型社会の形成に向けた北九州市の取組(北九州市環境局循環社会推進課長 原田 健二)</li> <li>・循環型社会形成に向けた市民活動等の取組の現状と課題(高倉環境研究所 高倉 弘二)</li> <li>・循環型社会形成に向けたリサイクル産業の現状と課題-木材・プラスチック再生複合材(WPRC)事業を中心に-(株式会社エコウッド 取締役会長 石本 康治(北九州エコタウン連絡会議会長))</li> </ul>																							
11/15 (水)	8:30	9:00	9:30	9:50	10:00	10:50	11:00	11:45	12:00	12:30	12:45	13:00	13:15	14:00	14:10	15:00	15:10	15:20	16:00	16:50	17:00	17:30	18:00	
	小倉駅 北口 集合	バス移動 (環境ミュージアム)	開講式 オリエン テーション	【グループ討議 ①】 アイスブレイク・自己紹介 オンライン講義を視聴して本研修 に期待するもの			休憩	【見学・学習】 環境ミュージアムの 概要 (リサイクルを中心に)	昼食	自由 見学・ 移動 準備	バス移動 (エコタウンセン ター)	【見学・学習】 エコタウンセンタ ーの概要	バス 移動	【企業見学】 西日本ペットボト ル リサイクル (PET)	バス 移動	【企業見学】 西日本家電リサイ クル (家電)	バス移動 (小倉駅前)							交 流 会
11/16 (木)	8:30	9:00	10:00	10:00	10:10	11:00	11:10	12:00	12:10	12:20	13:00	13:20	13:30	14:00	14:50	15:00	16:00	16:50	17:00	17:40	18:00			
	バス移動 (北九州エコタ ウン)	【企業見学】 リサイクルテック (廃ソーラー)	バス 移 動	【企業見学】 ビートル エンジニアリング (分別回収)	バス 移 動	【企業見学】 西日本オートリサイ クル (自動車)	バス 移 動	昼食 響灘ビオトープ	バス 移 動	【企業見学/意見交換】 エコウッド (廃木材、廃プラ)	バス 移 動	【グループ討議 ②】 ブレインストーミン グ (エコタウンセンター別館2F)			バス移動 (小倉駅前)									
11/17 (金)	8:30	9:00	10:00	10:20	10:30	11:00	11:30	11:40	12:00															
	KMMビル 集合	【グループ討議 ③】 各グループまとめ			休 憩	【グループ討議 ④】 グループ発表	休 憩	閉講式	解 散															

【注意事項】 都合により一部変更になることがあります。  
最終日の閉講式終了時間は12:00頃を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。  
帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度国際環境協力基本研修 実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

途上国由来の環境負荷が大きくなっていることから、地球環境問題や広域環境問題の解決には国際環境協力が重要であり、国及び地方公共団体等、各主体の取組が求められている。このため、環境に関する行政又は分析業務を担当している職員であって国際環境協力に関心を有する者に対し、講義、関連施設見学を通じて国際環境協力に関する基本的知識を習得し、国際環境協力への関心を高め、国際環境協力への参加の動機付けを目的とした研修を実施する。本研修では、国際環境協力の先進地である北九州市の豊富な知見を共有し、国際環境協力の問題や課題について討議するとともに、研修生間の交流を通じて、相互啓発及びネットワーク形成を図る。

## 2. 期間及び会場

本研修は、指定の期間に講義動画を全て視聴した上で、北九州市に集合し実施する。

### (1) 期間

全体：令和6年1月22日（月）～2月2日（金）

動画視聴期間：令和6年1月22日（月）～1月30日（火）

集合研修期間：令和6年1月31日（水）～2月2日（金）

### (2) 場所

#### ①講義等

タカミヤ環境ミュージアム（北九州市八幡東区東田2丁目2-6）

JICA九州（独立行政法人国際協力機構九州センター）（北九州市八幡東区平野2丁目2-1）

KMMビル（福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目14-1）

#### ②現地見学

タカミヤ環境ミュージアム（北九州市八幡東区東田2丁目2-6）

#### ③宿泊先

アパホテル小倉駅前（福岡県北九州市小倉北区浅野2-14-65）

## 3. 教科内容 3頁のとおり

## 4. 研修予定人数 30名程度

## 5. 受講資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境に関する行政又は分析業務を担当している職員で、国際環境協力について関心を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者

※所属機関の端末から、研修所YouTubeチャンネルへのアクセスが可能であることを確認の上で申し込むこと。

## 6. 研修生の推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による被推薦者名簿を添えて、**11月17日（金）《必着》までに**、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 7. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位を留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先させていただく場合がある。
- ・被推薦者数を調整するに当たっては、過去の受講実績などを考慮する。

## 8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

## 9. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了又は未修了）については、研修終了後、所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 10. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1) 往復に必要な旅費（ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。）
- (2) 滞在費（ただし、宿泊施設は環境調査研修所が借り上げるため、費用負担は不要。国家公務員（独立行政法人の職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。）

## 11. 日程

別添2「日程表（令和5年度国際環境協力基本研修）」のとおり。

## 12. 研修実施方法

- ・受講生は、環境調査研修所がYouTube 環境調査研修所公式チャンネル（※）に掲載する講義動画を集合研修開始日前日までに視聴する。配信のURLは受講生決定後、対象者に通知する。
- ・講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートの提出先、提出期限は別途連絡する。
- ・集合研修は福岡県北九州市内において行う。集合場所・時間等は受講決定後に連絡する。

（※）YouTube 環境調査研修所公式チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UC90NhGSbfgGJ9MS2nLCFg1Q>

教科目	時間
<b>I 国際環境協力の意義と実態を理解する</b>	
1【動画配信】我が国の国際環境協力の現状と課題（基調講義） ・我が国の環境行政の動向を学び、開発途上国等に対する我が国の環境協力の現状及び課題、今後の方向性について、概要を理解する。	1時間30分
2【動画配信】途上国の環境問題の現状とJICAの国際協力による取組 ・途上国における環境問題の実状と協力活動の実態について理解を深める。	1時間30分
3【動画配信】途上国の環境問題に対する我が国の自治体・地域レベルでの取組 ・途上国における環境問題の実状を踏まえて、我が国における自治体での取組事例やその意義を学ぶ。	1時間30分
4【留学生とのディスカッション】 ・北九州市内の大学に留学している留学生との対話を通じ、海外の実態を理解する。	1時間50分
5【国際協力経験者とのディスカッション】 ・海外協力経験者との対話を通じて、海外協力の実態を理解する。	1時間50分
<b>II 国際環境協力のベースとなるフィールドについて学ぶ（北九州市の事例）</b>	
6【見学・学習】 ・北九州市における環境学習施設を訪問し、地域の環境関係の歴史と現状を理解する。	1時間
<b>III 国際環境協力の具体的な実施事業を知る</b>	
7【事例紹介】福岡県、北九州市の国際環境協力事例紹介 ・自治体による具体的な取組事例を紹介し、自治体の環境協力の考え方を理解する。	1時間50分
8【事例紹介】草の根活動へのアプローチ ・カンボジア国プノンペン都における廃棄物管理能力向上技術協力について学ぶ。	1時間10分
9.【事例紹介】北九州市企業の海外事業展開と環境協力 ・北九州市企業の環境分野での海外事業展開について学ぶ。	1時間
10【活動紹介】日本の国際協力の現状と自治体への期待 ・JICAの国際協力の取組を学ぶとともに、自治体が国際環境協力に取組む意義を理解する。	40分
<b>IV 得られた知識を活用するために</b>	
11【演習】講義、施設見学、対話を踏まえて、各自の今後の取組についてグループ討議	5時間20分
<b>V その他</b> 開・閉講式、オリエンテーション	40分
合計（時間）	19時間50分

（注）都合により一部変更になることがあります。

※開講式は9時30分から行います。

※最終日の閉講式終了時刻は12時00分頃を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

# 令和5年度 国際環境協力基本研修 日程表

別添2

環境調査研修所

1/22 (月) ~ 1/30 (火)	<p>【動画視聴期間】受講生は、以下の講義を動画配信(YouTube環境調査研修所公式チャンネル)により各自受講し、別途送付するアンケートを環境調査研修所に提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【基調講義】我が国の国際環境協力の現状と課題 (環境省地球環境局国際脱炭素移行推進・環境インフラ担当参事官室 参事官補佐 工藤 俊祐)</li> <li>・途上国の環境問題の現状とJICAの国際協力による取組 (国際協力機構(JICA)地球環境部 環境管理・気候変動対策グループ 環境管理・気候変動対策第一チーム 課長 吉田 健太郎)</li> <li>・途上国の環境問題に対する我が国の自治体・地域レベルでの取組 ((公財)地球環境戦略研究機関(IGES)北九州アーバンセンター プログラムマネジャー 副ディレクター 日比野 浩平)</li> </ul>																	
1/31 (水)	8:30 830	9:00 900	9:30 930	9:50 950	10:00	10:50 1050	11:00 1100	12:00 1200	13:00 1300	13:55 1355	14:05 1405	15:00 1500	15:10 510	16:00	17:00 1700	17:30 1730	18:00	
	小倉駅北口バス駐車場集合	環境ミュージアムへバス移動 30分	閉講式 オリエンテーション		【グループ討議①】 アイスブレイク・自己紹介 オンライン講義を視聴して本 セミナーに期待するもの	休憩	【見学・学習】 環境ミュージアム見学	昼食	【事例紹介】 北九州市環境局 環境国際戦略課 村上 恵美子課長	休憩	【事例紹介】 福岡県環境政策課 国際環境協力係 江上 哲平係長	休憩	ひびきの学研都市留学生とのディスカッション	小倉駅までバス移動	ホテル	交流会		
2/1 (木)	8:30	9:00 900	9:40 940	9:50 950	11:00 1100	11:10 1110	12:00 1210	13:00 1300	14:00 1400	14:50 1450	15:00 1500	16:00	17:00 1700	17:30 1730	18:00			
	JICA九州へバス移動	【活動紹介】 「日本の国際協力の現状と自治体への期待」 JICA九州吉成所長	休憩		【事例紹介】 「草の根活動へのアプローチ —カンボジアを事例として—」 高倉環境研究所 高倉代表	休憩	【事例紹介】 「北九州市企業の海外事業 展開と環境協力」 KITA技術協力部 麻原部長	昼食	国際協力経験者とのディスカッション 福岡県環境政策課 中川主任技師 北九州市 環境局 有馬 海渡 青木 のえる ビートルエンジニアリング 成田取締役	休憩		【グループ討議②】 ブレインストーミング	小倉駅までバス移動					
2/2 (金)	8:30	9:00 900	10:00	10:20 1020	10:30 1030	11:00	11:30 1130	11:40 1140	12:00 1200	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00 1700	18:00			
	KMMビル集合	【グループ討議③】 各グループまとめ	休憩		【グループ討議④】 グループ発表	休憩	閉講式	解散										

【注意事項】 都合により一部変更になることがあります。  
最終日の閉講式終了時間は12:00頃を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。  
帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度環境問題史研修（もやい直しー水俣の経験から学ぶ地域再生ー）実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

公害を克服すべく取り組み、未来に向けて環境保全を重視した地域づくりを進めている熊本県水俣市において、環境保全を軸とした地域再生の取り組みから地域住民等と連携した環境保全の推進方策を学び、今後の環境行政及び地域再生業務の遂行に必要な専門的知識を習得するとともに、実際の現場の見学、関係者との交流等の体験をもとに、自ら考え、研修生間の意見交換・交流を行うことで、相互啓発及びネットワーク形成を図ることを目的とする。

## 2. 期間及び会場

- (1) 期間：令和6年1月17日（水）から1月19日（金）まで（3日間）
- (2) 会場：①現地見学：水俣病資料館、水俣病情報センター（株）JNC工場等（熊本県水俣市）  
②講義：水俣環境アカデミア、国立水俣病総合研究センター（熊本県水俣市）
- (3) 宿泊場所：スーパーホテル水俣（〒867-0043 熊本県水俣市大黒町1-1-38）
- (4) 集合場所：JR 新水俣駅

## 3. 教科内容

別紙のとおりとする。

## 4. 予定研修人員

15名程度

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境行政を担当している職員及び地域再生など関連する業務を担当している職員
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者

## 6. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による被推薦者名簿を添えて、**11月2日（木）《必着》**までに、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。2名以上推薦する場合、被推薦者名簿に推薦希望の順位を示すこと。

なお、送付は電子での提出を基本とする。【提出先】：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 7. 被推薦者が定員を超えた際の調整方法

- ・同じ推薦機関で2名以上の希望があった場合、推薦希望順位に留意し、調整する場合がある。
- ・定員を超えた場合、地方公共団体を優先する場合がある。
- ・被推薦者数を調整するに当たっては、過去の受講実績等を考慮する。

## 8. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

## 9. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了又は未修了）については、研修終了後、所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 10. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

### (1) 往復に必要な旅費

ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

### (2) 滞在費

ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については日額旅費を環境調査研修所から支給する。  
なお、滞在費の内訳は別添のとおり。

## 11. 日程

別添2 日程表のとおり。

## 12. その他

本研修は、環境省職員等を対象とした「令和5年度環境省職員研修（環境問題史）」と合同で実施します。

## 令和5年度環境問題史研修（もやい直し—水俣の経験から学ぶ地域再生—）教科内容

- |   |          |        |
|---|----------|--------|
| 1. 過去と現状、地域再生の取り組みを知る（講義、見学）  | ・・・・・・・・ | 9時間50分 |
| 水俣病の関係者の講義、関連施設の見学、企業・市民・行政の連携取り組みの見学等を通して、実際の現場や関係者の想いに触れて、水俣病の歴史的経過・現状、地域再生の取り組みについて理解を深める。 |          |        |
| 2. ワークショップ  | ・・・・・・・・ | 1時間30分 |
| 1で得たものについて、討議の中で自らの考えをまとめ、考察する。   |          |        |
| 3. その他（開・閉講式、オリエンテーション等）  | ・・・・・・・・ | 0時間30分 |

合計 11時間50分

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 開講式は、13時45分より行う予定です。13時15分までにJR新水俣駅にお集まりください。
- 最終日の終了時間は13時15分（JR新水俣駅着14時00分予定）を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和6年1月17日(水)

13:00～13:30	13:15新水俣駅集合 13:15～13:30バス移動
13:30～13:45	<受付>
13:45～14:15	<開講式> (15分) <オリエンテーション> (10分) スタッフ紹介、スケジュール確認 場所：水俣環境アカデミア
14:15～14:45	「講演① 水俣病の歴史」 講師：熊本県 水俣病保健課 森主幹 場所：水俣環境アカデミア
14:45～15:00	移動（バス）
15:00～16:45	「国・市の施設見学ほか」 1.水俣病資料館・情報センター見学 (展示解説 各施設) 15:00～15:45 2.資料館語り部講話（水俣市立水俣病資料館語り部 緒方正実氏）15:45～16:45
16:45～17:00	移動（バス）
17:00	宿泊先・スーパーホテル水俣 到着・休憩
18:30～20:30	<研修生交流会> 場所：福田農場

令和6年1月18日(木)

8:50	スーパーホテル水俣 出発
8:50～9:00	移動（バス）
9:00～10:00	「JNC工場見学」
10:00～10:30	移動（バス）
10:30～12:00	「講演② もやい直しの取り組み」 講師：榮永 徳博氏・水俣市南部もやい直しセンター「おれんじ館」館長 徳富 一敏氏 場所：国立水俣病総合研究センター
12:00～13:00	昼食（お弁当） 場所：国立水俣病総合研究センター
13:00～15:00	「国立水俣病総合研究センター見学・講義」 国立水俣病総合研究センター概要、水銀研究、国際貢献・地域貢献の取組、リハビリ室見学 場所：国立水俣病総合研究センター
15:00～15:30	移動（バス）
15:30～17:00	「企業と市民と行政の連携取り組み見学」(※) Aコース：田中商店（びんのリユース事業） Bコース：アクトビー・リサイクリング（家電リサイクル事業） Cコース：わく・ワークみなまた（障害福祉サービス事業所就労継続支援B）
17:00～17:15	移動（バス）
17:15	スーパーホテル水俣 到着

(※) 「企業と市民と行政の連携取り組み見学」は、A～Cのコースに分かれていずれかを見学します。

希望のコースは研修生決定後に確認しますが、各コースの定員の都合上、ご希望に添えない場合もございます。

令和6年1月19日(金)

8:30	スーパーホテル水俣 出発
8:30～8:40	移動（バス）
8:40～9:10	「講演③ 水俣市の環境への取り組み」 講師：水俣市環境課 場所：水俣環境アカデミア
9:10～10:00	「講演④ 水俣の海の再生への取り組み」 講師：水俣ダイビングサービス SEA HORSE 森下 誠氏 場所：水俣環境アカデミア
10:00～10:10	休憩
10:10～11:40	「まとめのワークショップ」・閉講式 ファシリテーター：水俣環境アカデミア所長 古賀 実 場所：水俣環境アカデミア
11:40～12:00	移動（バス）
12:00～12:45	昼食 場所：貝汁味処 南里
12:45～13:00	移動（バス）
13:00～13:15	水俣病慰霊の碑見学
13:15～13:25	移動（バス）
13:25～13:40	休憩（道の駅みなまた）
13:40～14:00	移動（バス）
14:00	新水俣駅着 解散

## 令和5年度 水質分析研修 実施要綱

### 1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、水質分析測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿により相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

### 2. 期間および会場

#### (1) 期間

全体：令和5年12月1日（金）から12月13日（水）

オンライン開催日：令和5年12月1日（金）および12月13日（水）

会場に集合する期間：令和5年12月4日（月）～12月8日（金）

**※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。**

#### (2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

### 3. 教科内容

別紙のとおりとする。

### 4. 研修予定人員

各コース 12名

### 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話、および PowerPoint, Excel, Word ファイルの画面共有
- ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス  
(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)
- ・ 研修所ホームページへのアクセス

### 6. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、添付様式による「被推薦者名簿」及び別添3の「実務経験調書」を添えて、**令和5年10月16日(月)まで**に必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知する

こと。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

※なお、添付様式「被推薦者名簿」についてはコースごとにシートを分けているため入力誤りが無いよう注意すること。

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

## 8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

### （1）往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

### （2）滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

## 10. 日程について

別添2「日程表（令和5年度水質分析研修）」のとおり。

\*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

## (別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する<sup>※</sup>。受講生は、開講日（12月1日）までに、配信された教材の聴講を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の聴講確認はレポートの提出により行う。レポートは開講日（12月1日）までに教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)へ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、オンラインで実施する総合討論において受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし聴講していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。

### ○ 水質分析研修 教科内容

教科内容	時間
基調講義	0.75
共通講義	0.75
講義動画聴講	3
実習講義	1.5
実習	25.5
総合討論	1.5
その他(開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等)	4
合計教科時間	37

### ○ 水質分析研修 実習内容

コース	実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
A	水質中の農薬 GC/MS対象水質基準 項目（シマジン・チ オベンカルブ）	前処理及び測定法 (ガスクロマトグラフ 質量分析法) の習得	1. 前処理法固相抽出法 2. クリーンアップ法 3. 測定法 ガスクロマトグラフ質量分析法（四重 極型） 4. 精度管理手法	12名

B	水質中の有機フッ素化合物 PFOS、PFOA、PFHxS	前処理及び測定法 (固相抽出法および液体クロマトグラフ質量分析法の習得)	1. 前処理法 固相抽出法 2. 測定法 液体クロマトグラフ質量分析法(四重極型) <sup>注)</sup> 3. 精度管理手法 注) 装置測定メソッドの作成は行いません	12名
C	水質中の金属類 カドミウム、鉛、亜鉛、ヒ素、セレン等	告示法およびJIS等に基づく有害金属測定技法及び応用手法の習得	1. 前処理法 試料分解法、固相抽出法 2. 測定法 ICP質量分析法、水素化物発生原子吸光法 3. 精度管理手法	12名
合 計				36名

○日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト <sup>†</sup>	令和5年11月20日(月)
教材配信 <sup>†</sup>	配信URL通知日～ 令和5年12月13日(水)
開講式 <sup>†</sup>	令和5年12月1日(金) 14:00～ (10分間)
教務課オリエンテーション <sup>†</sup>	令和5年12月1日(金) 14:10～ (5分間)
基調講義 <sup>†</sup>	令和5年12月1日(金) 14:15～ (45分間)
共通講義 <sup>†</sup>	令和5年12月1日(金) 15:00～ (45分間)
実習オリエンテーション <sup>†</sup>	令和5年12月1日(金) 16:00～ (30分間)
実習 <sup>‡</sup>	令和5年12月4日(月)～ 令和5年12月8日(金)
総合討論 <sup>†</sup>	令和5年12月13日(水) 14:00～ (90分間)
閉講式 <sup>†</sup>	令和5年12月13日(水) 15:45～ (15分間)

<sup>†</sup>オンラインで実施します。<sup>‡</sup>環境調査研修所に集合して実施します。

○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画を期間内に聴講してください。

コース	教材名	時間
A	固相抽出の基礎操作	0.5
	固相抽出法の原理	0.5
	GCの基礎	1
	MSの基礎 (GC/MS)	1
B	固相抽出の基礎操作	0.5
	固相抽出法の原理	0.75
	LCの基礎	0.75
	MSの基礎 (LC/MS)	1
C	水質試料の前処理	1.5
	金属類の分析法	1.5

(注)

1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 集合研修初日の施設説明は10：00より行う予定です。9：30までに入所してください。
3. 集合研修最終日は15：45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和5年度 水質分析研修/日程表

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 (休憩)	15:45	17:00
オンライン 研修所	12/1(金)	<b>動画視聴【各自】</b> <b>Aコース</b> ・固相抽出の基礎操作 (ジールサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター CS2課 下藤 辰也) ・固相抽出法の原理 (ジールサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター CS2課 下藤 辰也) ・GCの基礎 (東京薬科大学 講師 熊田 英峰) ・MSの基礎 (GC/MS) (株式会社ハイベップ研究所 リサーチフェロー 笠間 健嗣) <b>Bコース</b> ・固相抽出の基礎操作 (ジールサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター CS2課 下藤 辰也) ・固相抽出法の原理 (ジールサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター CS2課 下藤 辰也) ・LGの基礎 (ジールサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター 田中 佳奈) ・MSの基礎 (LG/MS) (株式会社ハイベップ研究所 リサーチフェロー 笠間 健嗣) <b>Cコース</b> ・水質試料の前処理 (麻布大学 教授 伊藤 彰英) ・金属類の分析法 (PerkinElmer Japan 合同会社 古川 真)						14:00~ 開講式 オリエン テーション	14:15~15:00 基調講義 水・大気環境局 橋立 佳央理	15:00~15:45 共通講義 環境調査研修所 藤森 英治	休憩 16:00~ 16:30 実習オリエン テーション
	12/4(月)	10:00~ 施設説明、実習室説明	<b>実習講義【A・Bコース】11:00~12:00</b> ジールサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター CS1課 国枝 巧 <b>実習講義【Cコース】</b> 環境調査研修所 本多 将俊		<b>実習</b> <b>【Aコース】13:00~ 実習</b> ジールサイエンス株式会社 総合企画部 営業企画課 マネージャー 高柳 学 <b>【Bコース】13:00~ 実習</b> ジールサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター CS1課 高原 玲華 <b>【Cコース】 実習</b> ジールサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター CS1課 国枝 巧		環境調査研修所 岩切 良次	環境調査研修所 木村 久美子	環境調査研修所 本多 将俊		
	12/5(火)	8:50~ 9:20	<b>実習</b> <b>【Aコース】実習</b> 環境調査研修所 岩切 良次 アジレント・テクノロジー株式会社 アプリケーションスペシャリスト 高桑 裕史 株式会社島津製作所 分析計測事業部Solutions COE/グリーンソリューションユニット GC/GCMS担当 牧岡 慎吾 <b>【Bコース】実習</b> 環境調査研修所 木村 久美子 <b>【Cコース】実習</b> 環境調査研修所 本多 将俊 アジレント・テクノロジー株式会社 アプリケーションエンジニア 伊達 由紀子 PerkinElmer Japan合同会社アプリケーションリサーチラボ マネージャー 敷野 修		(同左) 実習						
	12/6(水)	実習 準備等	<b>実習</b> <b>【Aコース】実習</b> 環境調査研修所 岩切 良次 アジレント・テクノロジー株式会社 アプリケーションスペシャリスト 高桑 裕史 株式会社島津製作所 分析計測事業部Solutions COE/グリーンソリューションユニット GC/GCMS担当 牧岡 慎吾 <b>【Bコース】実習</b> 環境調査研修所 木村 久美子 株式会社エービー・サイエックス アプリケーションサポート部スペシャリスト 山本 礼央 日本ウォーターズ株式会社 カスタマーサクセスグループシニアスペシャリスト 山田 英彦 <b>【Cコース】実習</b> 環境調査研修所 本多 将俊 アジレント・テクノロジー株式会社 アプリケーションエンジニア 伊達 由紀子 PerkinElmer Japan合同会社アプリケーションリサーチラボ マネージャー 敷野 修		(同左) 実習						
	12/7(木)	実習 準備等	<b>実習</b> <b>【Aコース】実習(測定・試料前処理等)</b> 環境調査研修所 岩切 良次 <b>【Bコース】実習</b> 環境調査研修所 木村 久美子 株式会社エービー・サイエックス アプリケーションサポート部スペシャリスト 山本 礼央 日本ウォーターズ株式会社 カスタマーサクセスグループシニアスペシャリスト 山田 英彦 <b>【Cコース】実習</b> 環境調査研修所 本多 将俊 株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE グリーンソリューションユニット主任 川上 正		(同左) 実習						
	12/8(金)	実習	<b>【Aコース】測定・データ解析・総合討論の準備</b> <b>【Bコース】データ整理・総合討論の準備</b> <b>【Cコース】データ整理</b>		(同左) 実習		総合討論に ついて説明				
12/13(水)								14:00~ 総合討論	15:45~ 閉講式		

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただけます。  
 配信URLの通知後から12/1(金)までが視聴可能期間となります。

- 使用教室 施設説明 : 本館2階第1教室  
 <Aコース(指導教官:岩切教官)> 実習、実習オリエンテーション、実習講義 : 実習棟3階  
 <Bコース(指導教官:木村教官)> 実習、実習オリエンテーション、実習講義 : 特殊実習棟2、3階  
 <A、Bコース共通講義> : 研修棟3階 大セミナー室  
 <Cコース(指導教官:本多教官)> 実習、実習オリエンテーション、実習講義 : 実習棟2階  
 開講式、オリエンテーション、基調講義、共通講義、実習オリエンテーション、総合討論、閉講式 : オンライン

注)12/8(金)の終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。  
 帰路の航空機、列車等の都合により、講義や開講式等を欠席することは認めません。

# 令和5年度 特定機器分析研修 I (ICP-MS) 第1回 実施要綱

## 1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、特定の機器 (ICP-MS) 測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿により相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

## 2. 期間および会場

### (1) 期間

全体：令和5年9月4日 (月) から9月20日 (水)

オンライン開催期間：令和5年9月4日 (月) ～9月8日 (金)、9月20日 (水)

会場に集合する期間：令和5年9月11日 (月) ～9月15日 (金)

**※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。**

### (2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04 (2994) 9766 (教務課直通)

## 3. 教科内容

別紙のとおりとする。

## 4. 定員

12名

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話、および PowerPoint, Excel, Word ファイルの画面共有
- ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス
- ・ 研修所ホームページへのアクセス

## 6. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添

えて、**令和5年7月14日(金)まで**に必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

## 8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

### （1）往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

### （2）滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

## 10. 日程について

別添3「日程表（令和5年度特定機器分析研修Ⅰ（ICP-MS）第1回）」のとおり。

## 11. 施設利用について

別添4「施設を利用するにあたっての留意事項」のとおり。

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する※。受講生は、環境調査研修所に集合する日までに、配信された教材の視聴を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートは集合研修開始日までに教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)へ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、オンラインで実施する総合討論において受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画視聴は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネル

(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>) にアクセスし視聴していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。配信は開講式前から行う予定としており、研修開始以前から視聴することができます。

○ 特定機器分析研修 I 教科内容

1.	講義動画視聴	2.	5
2.	実習講義	1.	5
3.	実習	2	2.5
4.	データ整理	3.	0
5.	総合討論	1.	5
6.	その他（開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等）	6.	0
合計			37.0時間

○ 実習内容

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
ICP-MS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICP-MS の測定方法の理解と操作技法の習得</li> <li>・ 水質試料の分析</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 測定物質 有害金属類</li> <li>2. 装置 ICP質量分析装置</li> <li>3. 内容               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 前処理</li> <li>2) 測定操作</li> <li>3) 定性及び定量分析</li> <li>4) 精度管理手法</li> </ol> </li> </ol>	12名

○ 日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト†	令和5年8月25日（金）

配信教材視聴 <sup>†</sup>	配信 URL 通知日～令和 5 年 9 月 8 日（金）
開講式 <sup>†</sup>	令和 5 年 9 月 4 日（月） 14:00～ （15 分間）
オリエンテーション <sup>†</sup>	令和 5 年 9 月 4 日（月） 14:15～ （75 分間）
実習オリエンテーション <sup>†</sup>	令和 5 年 9 月 8 日（金） 14:00～ （60 分間）
実習 <sup>‡</sup>	令和 5 年 9 月 11 日（月）～令和 5 年 9 月 15 日（金）
総合討論 <sup>†</sup>	令和 5 年 9 月 20 日（水） 14:00～ （90 分間）
閉講式 <sup>†</sup>	令和 5 年 9 月 20 日（水） 15:30～ （15 分間）

<sup>†</sup>オンラインで実施します。<sup>‡</sup>環境調査研修所に集合して実施します。

## ○ 配信教材一覧(予定)

配信される以下の教材動画を実習の開始日までに閲覧してください。

教材名	時間
ICP-MS による微量元素分析の実際-環境水試料を例として-	約 40 分
金属類の分析法-ICP 質量分析法について、ICP-MS 分析上の問題点と対策について-	約 40 分
ICP-MS による環境水試料の分析	約 60 分

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の施設説明は 10:00 より行う予定です。9:30 までに入所してください。
- 集合研修最終日は 15:45 に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

## 令和5年度 特定機器分析研修 I (ICP-MS) 第1回 / 日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 (休憩)	17:00
オンライン	9/4 (月)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>動画視聴【各自】</b>                      ・ ICP-MSによる微量元素分析の実際-環境水試料を例として- (環境省環境調査研修所 主任教官 藤森 英治)                      ・ 金属類の分析法-ICP質量分析法について、ICP-MS分析上の問題点と対策について- (PerkinElmerJapan プリンシパル アドバイザリット 古川 真)                      ・ ICP-MS による環境水試料の分析 (PerkinElmerJapan アプリケーションリサーチラボマネージャー 敷野 修)                 </div>						14:00~ 開講式	14:15~15:30 オリエンテーション、自己紹介	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>動画視聴【各自】</b> </div>
	9/5 (火) ~ 9/7 (木)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>動画視聴【各自】</b> </div>								
	9/8(金)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>動画視聴【各自】</b> </div>						14:00~15:00 実習オリエンテーション		
研修所	9/11 (月)		10:00~	施設説明 環境調査研修所 教官 本多 将俊		実習 実習室説明、実習講義				
	9/12 (火)	8:50~ 9:20	実習 アジレント・テクノロジー株式会社 アプリケーションエンジニア 伊達 由紀子 アプリケーションエンジニア 菅野 信行			(同左) 実習				
	9/13 (水)	実 習 準 備 等	実習 アジレント・テクノロジー株式会社 アプリケーションエンジニア 伊達 由紀子 アプリケーションエンジニア 菅野 信行			(同左) 実習				
	9/14 (木)		実習			(同左) 実習				
	9/15 (金)		実習			データ整理	(同左) データ整理		総合討論について説明	
オンライン	9/20 (水)							14:00~ 総合討論	15:45~ 閉講式	

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただけます。  
配信URLの通知後から9/8(金)までが視聴可能期間となります。

○使用教室 施設説明 : 本館第1教室  
 実習講義、実習、データ整理 : 実習棟2階  
 開講式、オリエンテーション、ゼミナール、閉講式 : オンライン

注)・9/15(金)の終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

・帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

## 令和5年度 特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）第1回、第2回 実施要綱

### 1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、特定の機器（LC/MS/MS）測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿により相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

### 2. 期間および会場

本研修は密回避のため、同等の内容を2期間に分けて実施する。

#### (1) 期間

##### 【第1回】

使用する装置：株式会社エービー・サイエックス 4500QTRAP（以降 SCIEEX）

日本ウォーターズ株式会社 Xevo TQD（以降 Waters）

全体：令和5年9月4日（月）から9月20日（水）

オンライン開催期間：令和5年9月4日（月）～9月8日（金）、9月20日（水）

集合研修期間：令和5年9月11日（月）～9月15日（金）

##### 【第2回】

使用する装置：アジレント・テクノロジー株式会社 6470 LC/MS（以降 Agilent）

株式会社島津製作所 LCMS-8050（以降 島津）

全体：令和5年10月10日（火）から10月25日（水）

オンライン開催期間：令和5年10月10日（火）～10月13日（金）、10月25日（水）

集合研修期間：令和5年10月16日（月）～10月20日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

#### (2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

### 3. 教科内容

別紙のとおりとする。

### 4. 研修予定人員

第1回、第2回それぞれ8名（各装置4名）

### 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する

者

- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

- ※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。
  - ・ Webex 上でのビデオ通話、および PowerPoint, Excel, Word ファイルの画面共有
  - ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス
  - ・ 研修所ホームページへのアクセス

## 6. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、令和5年7月14日(金)までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：KYOMU\_KA@env.go.jp

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

## 8. 修了証書の交付

- ・ 受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・ 修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

- (1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

- (2) 滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

## 10. 日程について

別添3-1、別添3-2「日程表（令和5年度特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS/MS）第1回、第2回）」のとおり。

## 11. 施設利用について

別添4「施設を利用するにあたっての留意事項」のとおり。

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する※。受講生は、環境調査研修所に集合する日までに、配信された教材の視聴を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートは**集合研修開始日までに教務課：KYOMU\_KA@env. go. jp**へ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、オンラインで実施する総合討論において受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画視聴は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネル

(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>) にアクセスし視聴していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。配信は開講式前から行う予定としており、研修開始以前から視聴することができます。

○ 特定機器分析研修Ⅱ 教科内容

	時間
1. 講義動画視聴	4.0
2. 実習講義	1.5
3. 実習	24.0
4. データ整理	1.5
5. 総合討論	1.5
6. その他（開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等）	6.0

合計 38.5 時間

○ 特定機器分析研修Ⅱ 実習内容

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
LC/MS/MS	LC/MS/MS の測定方法の理解と操作技法の習得	1. 測定物質 PFOS 等 2. 装置 高速液体クロマトグラフ タンデム質量分析計 3. 内容 1) 測定操作 2) 定性・定量分析 3) 精度管理手法  注) 固相抽出等、前処理は行いません。	各日程 8名

## ○ 日程

	実施日または実施期間	
使用する装置	第1回 SCIEX、Waters	第2回 Agilent、島津
事前接続テスト <sup>†</sup>	令和5年8月25日（金）	令和5年9月29日（金）
教材配信 <sup>†</sup>	配信 URL 通知日～ 令和5年9月8日（金）	配信 URL 通知日～ 令和5年10月13日（金）
開講式 <sup>†</sup>	令和5年9月4日（月） 14:00～（15分間）	令和5年10月10日（火） 14:00～（15分間）
オリエンテーション <sup>†</sup>	令和5年9月4日（月） 14:15～（75分間）	令和5年10月10日（火） 14:15～（75分間）
実習 オリエンテーション <sup>†</sup>	令和5年9月8日（金） 14:00～（60分間）	令和5年10月13日（金） 14:00～（60分間）
実習 <sup>‡</sup>	令和5年9月11日（月）～ 令和5年9月15日（金）	令和5年10月16日（月）～ 令和5年10月20日（金）
総合討論 <sup>†</sup>	令和5年9月20日（水） 14:00～（90分間）	令和5年10月25日（水） 14:00～（90分間）
閉講式 <sup>†</sup>	令和5年9月20日（水） 15:30～（15分間）	令和5年10月25日（水） 15:30～（15分間）

<sup>†</sup>オンラインで実施します。<sup>‡</sup>環境調査研修所に集合して実施します。

## ○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画および資料を期間内に閲覧してください。

教材名	時間
分離分析化学の基礎（2部構成）	約46分
LCの基礎（2部構成）	約65分
液体クロマトグラフィーの基礎（2部構成）	約47分
LC/MS/MSの基礎（6部構成）	約90分

（注）

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の施設説明は10:00より行う予定です。9:30までに入所してください。
- 集合研修最終日は15:45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度 特定機器分析研修Ⅱ (LC/MS/MS) 第1回／日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 (休憩)	15:45	17:00
オンライン	9/4 (月)	動画視聴【各自】 ・分離分析化学の基礎 (東京薬科大学 教授 梅村 知也) ・LCの基礎 (ジーエルサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター 田中 佳奈) ・液体クロマトグラフィーの基礎 (東京薬科大学 教授 梅村 知也) ・LC/MS/MSの基礎 (株式会社エービー・サイエックス アプリケーションサポート部マネージャー 緒方 幸恵)						14:00～ 開講式	14:15～15:30 オリエンテーション、自己紹介		動画視聴【各自】
	9/5(火) ～ 9/7(木)	動画視聴【各自】									
	9/8(金)	動画視聴【各自】						14:00～15:00 実習オリエンテーション		動画視聴【各自】	
研修所	9/11 (月)		10:00～ 施設説明	実験室説明、実習講義  環境調査研修所 教官 木村 久美子			(同左) 実習				
	9/12 (火)	8:50～ 9:20	実習 株式会社エービー・サイエックス アプリケーションサポート部 スペシャリスト 浅井重博 日本ウォーターズ株式会社 学術本部 アプリケーションサポート課 山田英彦				(同左) 実習				
	9/13 (水)	実 習 準 備 等	実習 株式会社エービー・サイエックス アプリケーションサポート部 スペシャリスト 浅井重博 日本ウォーターズ株式会社 学術本部 アプリケーションサポート課 山田英彦				(同左) 実習				
	9/14 (木)		実習				(同左) 実習				
	9/15 (金)		実習、データ整理				データ整理		総合討論について説明		
オンライン	9/20 (水)							14:00～ 総合討論		15:45～ 閉講式	

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただけます。  
配信URLの通知後から9/8(金)までが視聴可能期間となります。

- 使用教室 施設説明 : 本館第1教室  
 実験室説明、実習講義、実習、データ整理 : 特殊実習棟2階、3階  
 開講式、オリエンテーション、実習オリエンテーション、総合討論、閉講式 : オンライン

注)9/15(金)の終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

・帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

## 令和5年度 特定機器分析研修Ⅱ (LC/MS/MS) 第2回／日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 (休憩)	15:45	17:00
オンライン	10/10 (火)	動画視聴【各自】 ・分離分析化学の基礎 (東京薬科大学 教授 梅村 知也) ・LCの基礎 (ジーエルサイエンス株式会社 カスタマーサポートセンター 田中 佳奈) ・液体クロマトグラフィーの基礎 (東京薬科大学 教授 梅村 知也) ・LC/MS/MSの基礎 (株式会社エービー・サイエックス アプリケーションサポート部マネージャー 緒方 幸恵)						14:00～ 開講式	14:15～15:30 オリエンテーション、自己紹介		動画視聴【各自】
	10/11(水) ～ 10/12(木)	動画視聴【各自】									
	10/13(金)	動画視聴【各自】						14:00～15:00 実習オリエンテーション	動画視聴【各自】		
研修所	10/16 (月)		10:00～ 施設説明	実験室説明、実習講義  環境調査研修所 教官 木村 久美子			(同左) 実習				
	10/17 (火)	8:50～ 9:20	実習 アジレント・テクノロジー株式会社 アプリケーションエンジニア 軸丸裕介 株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE 坂井健朗				(同左) 実習				
	10/18 (水)	実 習 準 備 等	実習 アジレント・テクノロジー株式会社 アプリケーションエンジニア 軸丸裕介 株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE 坂井健朗				(同左) 実習				
	10/19 (木)		実習				(同左) 実習				
	10/20 (金)		実習、データ整理				データ整理		総合討論に ついて説明		
オンライン	10/25 (水)							14:00～ 総合討論	15:45～ 閉講式		

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただけます。  
配信URLの通知後から10/13(金)までが視聴可能期間となります。

○使用教室 施設説明 : 本館第1教室  
 実験室説明、実習講義、実習、データ整理 : 特殊実習棟2階、3階  
 開講式、オリエンテーション、実習オリエンテーション、総合討論、閉講式 : オンライン

注)・10/20(金)の終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

・帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

# 令和5年度 大気分析研修 実施要綱

## 1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、大気分析測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互啓発及びネットワーク形成を図る。

## 2. 期間および会場

### (1) 期間

全体: 令和6年1月26日(金)から2月14日(水)  
オンライン開催日: 令和6年1月26日(金)、2月14日(水)  
会場に集合する期間: 令和6年2月5日(月)～2月9日(金)  
**※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。**

### (2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地: 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3  
電話: 04(2994)9766(教務課直通)

## 3. 教科内容

別紙のとおりとする。

## 4. 研修予定人員

Aコース 8名  
Bコース 12名

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- Webex 上でのビデオ通話、および PowerPoint, Excel, Word ファイルの画面共有
- 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス  
(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)
- 研修所ホームページへのアクセス

## 6. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、

令和5年11月24日(金)までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

## 8. 修了証書の交付

- ・受講の状態(修了または未修了)については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書(電子データ)を交付する。

## 9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

### (1)往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

### (2)滞在費

※ただし、国家公務員(独立行政法人職員を除く。)については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

## 10. 日程について

別添3「日程表(令和5年度大気分析研修)」のとおり。

\* 次の情報を環境調査研修所ホームページ(URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>)に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

(研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。)

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する<sup>\*</sup>。受講生は、環境調査研修所に集合する日(令和6年2月5日)までに、配信された教材の聴講を終える(配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載)。
3. 講義動画の聴講確認はレポートの提出により行う。レポートは集合研修開始日(令和6年2月5日)までに教務課:[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)へ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、オンラインで実施する総合討論において受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし聴講していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。

○ 大気分析研修 教科内容

教科内容	時間
基調講義	1.0
講義動画聴講	8.5
共通講義	0.5
実習講義	1.5
実習	25.5
総合討論	1.5
その他(開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等)	5.0
合計教科時間	43.5

○ 大気分析研修 実習内容

コース	実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
A	有害揮発性有機汚染物質(HAPs)	有害大気汚染物質調査・モニタリング法の習得 VOCs: 容器捕集・低温濃縮/GC/MS 法	1. 標準試料調製 2. キャニスター洗浄及びブランク管理 3. サンプルング 4. 機器分析 5. データ解析 6. 精度管理	8名
B	重金属類	大気粉じん (PM <sub>2.5</sub> 含む) 中の重金属類測定法 (ICP-MS 法)	1. サンプルング 2. 前処理 3. 機器分析 4. データ解析 5. 精度管理	12名
合 計				20名

○ 日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト <sup>†</sup>	令和6年1月16日(火)
教材配信 <sup>†</sup>	配信 URL 通知日～ 令和6年2月14日(水)
開講式 <sup>†</sup>	令和6年1月26日(金) 14:00～ (10分間)
教務課オリエンテーション <sup>†</sup>	令和6年1月26日(金) 14:10～ (5分間)
基調講義 <sup>†</sup>	令和6年1月26日(金) 14:15～15:15 (60分間)
実習オリエンテーション <sup>†</sup>	令和6年1月26日(金) 15:15～15:45 (30分間)
実習 <sup>‡</sup>	令和6年2月5日(月)～ 令和6年2月9日(金)
総合討論 <sup>†</sup>	令和6年2月14日(水) 14:00～ (90分間)
閉講式 <sup>†</sup>	令和6年2月14日(水)15:45～ (15分間)

<sup>†</sup>オンラインで実施します。<sup>‡</sup>環境調査研修所に集合して実施します。

○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画及び資料を期間内に閲覧してください。

コース	教材名	時間
共通	炭素成分分析について	2.0
	大気中の6価クロムの分析について(仮)	0.5
	化学物質の環境リスク評価について	1.0
	大気エアロゾルの発生源解析	1.0
A	有害大気汚染物質モニタリングの実際	1.5
	固体吸着-加熱脱着装置の原理(仮)	0.5
	クロマトグラフィーの基礎(GC) GC・GC-MS分析における試料導入	1.5
	GCカラムの取扱いと選び方 ～GCカラムの選び方～	0.5
B	大気粉じん試料のサンプリング法	2.0
	大気粉じん中の重金属の分析について	1.5
	マイクロ波加熱分解法	0.5

- (注) 1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 集合研修初日の施設説明は 10:00 より行う予定です。9:30 までに入所してください。
  3. 集合研修最終日は 15:45 に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
  4. 帰路の航空機、列車の時間等により講義等を欠席することは認めません。

令和5年度 大気分析研修／日程表

(別添1)

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 (休憩)	15:45	16:00~	17:00
オンライン	1/26(金)	<p>動画視聴【各自】 共通 ・炭素成分分析について（埼玉環境科学国際センター大気環境担当 主任研究員 長谷川 就一） ・大気粉じん中の六価クロム化合物の測定について（地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 総括主査 西村 理恵） ・化学物質の環境リスク評価について（川崎市環境局環境総合研究所 主任 高居 千織） ・大気エアロゾルの発生源解析（高崎経済大学地域政策学部 教授 飯島 明宏） Aコース ・有害大気汚染物質モニタリングの実際（公益財団法人東京都環境公社東京都環境科学研究所 副参事研究員 星 純也） ・固体吸着-加熱脱着装置の原理（株式会社ENVサイエンストレーディング MARKESグループ 星野 邦広） ・クロマトグラフィーの基礎（GC）（東京薬科大学生命科学部 講師 熊田 英峰） ・GC・GC-MS分析における試料導入（東京薬科大学生命科学部 講師 熊田 英峰） ・GCカラムの取扱いと選び方（Restek株式会社） Bコース ・大気粉じん試料のサンプリング法（埼玉環境科学国際センター大気環境担当 主任研究員 長谷川 就一） ・大気粉じん中の重金属の分析について（埼玉環境科学国際センター研究推進室 副室長 米持 真一） ・マイクロ波加熱分解法（マイルストーンゼネラル株式会社 係長 後藤 将治）</p>						14:00~14:15 開講式 オリエンテーション	14:15~15:15 基調講義 環境省水・大気環境局 環境管理課 課長補佐 山田克之	15:30~16:00 共通講義 環境調査研修所 主任教官 藤森英治	16:00~16:30 実習オリエンテーション	
	2/5(月)	10:00~ 施設説明	<p>実験室説明、実習講義 【Aコース】 環境調査研修所 岩切良次 【Bコース】 同上 本多将俊</p>			<p>実習 【Aコース】実習（含む講義） 低温濃縮装置の構造と測定原理 ジーエルサイエンス株式会社 鈴木明 岩崎貴普 【Bコース】実習 環境調査研修所 本多将俊</p>						
研修所	2/6(火) 8:50~9:20 実習準備等	<p>実習 【Aコース】実習 環境調査研修所 岩切良次 ジーエルサイエンス株式会社 鈴木明 岩崎貴普 西川計測株式会社 安藤昌之</p>			<p>（同左）実習</p>							
		<p>【Bコース】実習 環境調査研修所 本多将俊 マイルストーンゼネラル株式会社 後藤将治</p>			<p>（同左）実習</p>							
		<p>実習 【Aコース】実習 環境調査研修所 岩切良次 元環境調査研修所主任教官 渡辺靖二</p>			<p>（同左）実習</p>							
		<p>【Bコース】実習 環境調査研修所 本多将俊 アジレント・テクノロジー株式会社 伊達由紀子 菅野信行</p>			<p>（同左）実習</p>							
		<p>実習 【Aコース】実習（測定・試料前処理等） 環境調査研修所 岩切良次 元環境調査研修所主任教官 渡辺靖二</p>			<p>（同左）実習</p>							
		<p>【Bコース】実習 環境調査研修所 本多将俊 アジレント・テクノロジー株式会社 伊達由紀子 菅野信行</p>			<p>（同左）実習</p>							
オンライン	2/9(金)	<p>実習 【Aコース】測定・データ解析・総合討論の準備 環境調査研修所 岩切良次</p>			<p>（同左）実習</p>			~15:45	総合討論について説明			
		<p>【Bコース】データ整理 環境調査研修所 本多将俊</p>			<p>（同左）実習</p>							
オンライン	2/14(水)	14:00~ 総合討論						15:45~16:00 閉講式				

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただきます。  
配信URLの通知後から2/14(水)までが視聴可能期間となります。

○使用教室 施設説明 : 本館第1教室  
 <Aコース(指導教官:岩切教官)> 実習、実験室説明、実習講義 : 実習棟3階  
 <Bコース(指導教官:本多教官)> 実習、実験室説明、実習講義 : 実習棟2階

開講式、オリエンテーション、基調講義、共通講義、実習オリエンテーション、総合討論、閉講式 : オンライン

注)2/9(金)の集合研修終了時刻は15:45を予定しておりますが、実習の延長等により若干遅れる場合があります。  
 帰路の航空機、列車等の都合により、実習等を欠席することは認めません。

## 令和5年度 廃棄物分析研修 実施要綱

### 1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、廃棄物中の重金属等の分析測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿により相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

### 2. 期間および会場

#### (1) 期間

全体：令和5年10月10日（火）から10月25日（水）

オンライン開催期間：令和5年10月10日（火）～10月13日（金）、10月25日（水）

会場に集合する期間：令和5年10月16日（月）～10月20日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

#### (2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

### 3. 教科内容

別紙のとおりとする。

### 4. 研修予定人員

10名

### 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者
- (4) オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話、および PowerPoint, Excel, Word ファイルの画面共有
- ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス  
(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)
- ・ 研修所ホームページへのアクセス

### 6. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添

えて、**令和5年8月4日(金)まで**に必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

## 8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

### （1）往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

### （2）滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

## 10. 日程について

別添3「日程表（令和5年度廃棄物分析研修）」のとおり。

## 11. 施設利用について

別添4「施設を利用するにあたっての留意事項」とおり。

**(別紙) 研修実施方法**

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する※。受講生は、環境調査研修所に集合する日までに、配信された教材の視聴を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の視聴確認はアンケートへの回答により行う。アンケートは集合研修開始日までに教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)へ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、オンラインで実施する総合討論において受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画視聴は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし視聴していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。配信は開講式前から行う予定としており、研修開始以前から視聴することができます。

**○ 廃棄物分析研修 教科内容**

	時間
1. 基調講義（廃棄物行政の現状と課題（仮））	1.0
2. 実習講義	1.5
3. 講義動画視聴	5.5
4. 実習	22.5
5. データ整理	3.0
6. 総合討論	1.5
7. その他（開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等）	5.5

合計 40.5 時間

**○ 廃棄物分析研修実習内容**

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要	定員
廃棄物中の重金属類 カドミウム、鉛、クロム、ヒ素、セレン、六価クロム等	前処理及び有害金属測定法の習得	1. 試料調製法 溶出試験（環告 13 号法） 2. 検液の前処理 3. 測定法 I C P 発光分光法、水素化物発生原子吸光法、ジフェニルカルバジド吸光光度法 4. 精度管理手法	10 名

○ 日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト <sup>†</sup>	令和5年9月29日(金)
教材配信 <sup>†</sup>	配信URL通知日～ 令和5年10月13日(金)
開講式 <sup>†</sup>	令和5年10月10日(火) 14:00～ (15分間)
オリエンテーション <sup>†</sup>	令和5年10月10日(火) 14:15～ (75分間)
基調講義 <sup>†</sup>	令和5年10月13日(金) 14:00～ (60分間)
実習オリエンテーション <sup>†</sup>	令和5年10月13日(金) 15:00～ (30分間)
実習 <sup>‡</sup>	令和5年10月16日(月)～ 令和5年10月20日(金)
総合討論 <sup>†</sup>	令和5年10月25日(水) 14:00～ (90分間)
閉講式 <sup>†</sup>	令和5年10月25日(水) 15:45～ (15分間)

<sup>†</sup>オンラインで実施します。 <sup>‡</sup>環境調査研修所に集合して実施します。

○ 配信予定教材一覧

以下の教材動画および資料を期間内に閲覧してください。

教材名	時間
溶出試験の実際と課題	約160分
金属類の分析法	約160分

(注)

1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 集合研修初日の施設説明は10:00より行う予定です。9:30までに入所してください。
3. 集合研修最終日は15:45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度 廃棄物分析研修／日程表

環境調査研修所

		9:30	10:00	11:00 11:15 (休憩)	11:30	12:00	12:45 13:45	14:00	15:15 15:30 (休憩)	15:45	17:00	
オンライン	10/10 (火)	動画視聴【各自】 ・溶出試験の実際と課題 (大阪公立大学 准教授 水谷 聡) ・金属類の分析法 (PerkinElmer Japan プリンシパルプロダクトスペシャリスト 古川 真)						14:00～ 開講式	14:15～15:30 オリエンテーション、自己紹介	動画視聴【各自】		
	10/11(水) ～ 10/12(木)	動画視聴【各自】										
	10/13(金)	動画視聴【各自】						14:00～15:00 【基調講義】 廃棄物行政の現状と課題(仮) 環境省廃棄物規制課 課長補佐 切川 卓也	15:00～15:30 実習オリエン テーション	動画視聴【各自】		
研修所	10/16 (月)		10:00～ 施設説明	実験室説明、実習講義  環境調査研修所 教官 藤森 英治			(同左) 実習					
	10/17 (火)	8:50～ 9:20	実習 アジレント・テクノロジー(株) アプリケーションエンジニア 橋本 文寿 PerkinElmer Japan プリンシパルプロダクトスペシャリスト 古川 真				(同左) 実習					
	10/18 (水)	実 習 準 備 等	実習 アジレント・テクノロジー(株) アプリケーションエンジニア 橋本 文寿 PerkinElmer Japan プリンシパルプロダクトスペシャリスト 古川 真				(同左) 実習					
	10/19 (木)		実習				(同左) 実習					
	10/20 (金)		実習、データ整理 公立鳥取環境大学環境学部 准教授 門木 秀幸				データ整理		総合討論に ついて説明			
オンライン	10/25 (水)							14:00～ 総合討論	15:45～ 閉講式			

○動画視聴 講義動画は、YouTube環境調査研修所公式チャンネルにアクセスして視聴していただけます。  
配信URLの通知後から10/13(金)までが視聴可能期間となります。

○使用教室 施設説明 : 本館第1教室  
 実験室説明、実習講義、実習、データ整理 : 実習棟2階  
 開講式、オリエンテーション、基調講義、実習オリエンテーション、総合討論、閉講式 : オンライン

注)・10/20(金)の終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。

・帰路の航空機、列車等の都合により、講義や閉講式等を欠席することは認めません。

## 令和5年度 VOCs 分析研修（水質）実施要綱

### 1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析に係る業務を担当している職員が、水質中の揮発性有機化合物（VOCs）の分析測定に関する専門的知識及び技術を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

### 2. 期間および会場

#### （1）期間

全体：令和6年3月1日（金）から3月8日（金）

オンライン開催日：令和6年3月1日（金）

会場に集合する期間：令和6年3月4日（月）～3月8日（金）

※会場に集合する期間中は受講者全員合宿制となります。

#### （2）集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

### 3. 教科内容

別紙のとおりとする。

### 4. 研修予定人員

8名

### 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- （1）国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- （2）研修受講に支障のない健康状態にある者
- （3）所属長の推薦を受けた者
- （4）オンライン会議システム Webex の使用が可能な者

※ 所属機関の端末から以下の行為が可能であることを確認の上で申し込むこと。

- ・ Webex 上でのビデオ通話、および PowerPoint, Excel, Word ファイルの画面共有
- ・ 研修所 YouTube チャンネルへのアクセス  
(<https://www.youtube.com/channel/UC9ONhGSbfgGJ9MS2nLCFglQ/featured>)
- ・ 研修所ホームページへのアクセス

## 6. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、添付様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、令和6年1月4日(木)までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

## 8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

### (1) 往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

### (2) 滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

## 10. 日程について

別添3「日程表\_令和5年度VOCs分析研修（水質）」のとおり。

\*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

(別紙) 研修実施方法

1. 「開講式」「オリエンテーション」等は指定の日時にオンラインにて行う。
2. 環境調査研修所は、講義動画を YouTube 環境調査研修所公式チャンネルに掲載する\*。受講生は、環境調査研修所に集合する日（令和6年3月4日）までに、配信された教材の聴講を終える（配信予定の教材は、本文書の「配信予定教材一覧」に掲載）。
3. 講義動画の聴講確認はレポートの提出により行う。レポートは集合研修開始日（令和6年3月4日）までに教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)へ電子メールにて送付すること。
4. 受講生は指定された日時に環境調査研修所に集合し、担当教官の指示に従って実習を行う。実習結果報告書を作成し、担当教官に提出する。
5. 報告書に基づき、ゼミナールにおいて受講生同士の意見交換や討議を行う。

※ 講義動画は、YouTube 環境調査研修所公式チャンネルにアクセスし聴講していただきます。配信の URL は研修生決定後、対象者に通知します。

○ VOCs 分析研修 教科内容

教科内容	時間
基調講義	0.75
講義動画聴講	2.5
実習（実習講義、結果のまとめとレポート作成を含む）	27.0
ゼミナール	1.5
その他（開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等）	3.75
合計教科時間	35.5

○ VOC s 分析研修（水質） 実習内容

目的：水質中の VOC s ヘッドスペースサンプラー（HS）-GC-MS を用いた VOCs 測定法の習得  
実習内容の概要：混合標準試料を用いて、VOCs を対象とした測定メソッドを GC-MS で作成する。その後、測定用試料を使い、試料の前処理方法や作成したメソッドによる HS-GC-MS 測定、測定結果の解析を行う。

○日程

	実施日または実施期間
事前接続テスト†	令和6年2月19日(月)
教材配信†	配信URL通知日～令和6年3月13日(水)
開講式†	令和6年3月1日(金) 14:00～(10分間)
教務課オリエンテーション†	令和6年3月1日(金) 14:10～(20分間)
基調講義†	令和6年3月1日(金) 14:30～(45分間)
実習オリエンテーション†	令和6年3月1日(金) 15:30～(30分間)
実習‡	令和6年3月4日(月)～令和6年3月8日(金)
ゼミナール‡	令和6年3月8日(金) 13:45～(90分間)
閉講式‡	令和6年3月8日(金) 15:30～(15分間)

†オンラインで実施します。‡環境調査研修所に集合して実施します。

○配信予定教材一覧

以下の教材動画を期間内に聴講してください。

教材名	時間
クロマトグラフィーの基礎(GC)	1.0
GG GC/MSの試料導入について	0.5
VOCs分析法解説	1.0

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 集合研修初日の施設説明は9:00より行う予定です。8:45までに入所してください。
- 集合研修最終日は15:45に終了する予定ですが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
- 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

令和5年度 VOCs分析研修（水質） 日程表

環境調査研修所

		8:50 ~9:20	9:30	11:00 11:15 (休憩)	12:45 13:45 (昼休み)	15:15 15:30 (休憩)	16:00	17:00
3/1(金) オンライン		動画視聴【各自】 ・クロマトグラフィーの基礎（GC）（東京薬科大学生命科学部 講師 熊田 英峰） ・GC/MSの試料導入について（東京薬科大学生命科学部 講師 熊田 英峰） ・VOCs分析法解説（株式会社環境管理センター 分析員 上條 憂紀）			14:00~ 開講式 オリエンテーション	14:30~15:15 基調講義 水・大気環境局環境管理課 課長補佐 亀井 雄	15:30~16:00 実習オリエンテーション	
3/4 (月)	施設説明	9:00~	実習講義	講義 -ヘッドスペースサンプラーの構造と操作-  PerkinElmer Japan 合同会社 梅澤 理賀	実習 10ng/mL標準液調整、同SCAN分析、SIMメソッド作成、 SIMメソッド確認用測定（仮）  アジレント・テクノロジー株式会社 高桑 裕史  PerkinElmer Japan 合同会社 梅澤 理賀			
3/5 (火)	実習		実習 10ng/mL標準液調整、同SCAN分析、SIMメソッド作成、 SIMメソッド確認用測定（仮）  アジレント・テクノロジー株式会社 高桑 裕史  PerkinElmer Japan 合同会社 梅澤 理賀		実習、実習講義  環境調査研修所 教官 大曲 遼、岩切 良次			
3/6 (水)	準備等		実習 検量線標準液の調製、HS用試料の作成、ブランク試料の作成、測定、解析（仮）  環境調査研修所 教官 大曲 遼、岩切 良次		同左			
3/7 (木)	準備等		同上 前日と同様の操作に加えて、水道水試料SIM測定等を実施（仮） データ解析、報告書作成も適宜実施  環境調査研修所 教官 大曲 遼、岩切 良次		同左			
3/8 (金)			実習 データ解析、報告書作成  環境調査研修所 教官 大曲 遼、岩切 良次		ゼミナール  環境調査研修所 教官 大曲 遼、岩切 良次	閉講式 15:30~15:45		

○使用教室：施設説明、閉講式・・・第1教室

：講義、実習、ゼミナール・・・実習棟3階

○実習準備等：実習に関わる講義、各実習グループごとに実習打合せ、実習準備等を行う。

○指導教官：大曲 遼 岩切 良次

注) 最終日の研修終了時刻は15:45を予定しておりますが、講義時間の延長等により、若干遅れる場合があります。

帰路の航空機、列車時間等により、最終日の講義並びに閉講式等を欠席することは認めません。

参加にあたっては、「研修受講ガイドブック」（環境調査研修所ホームページに掲載）をよくお読みください。

# 令和5年度 アスベスト分析研修 実施要綱

(2023.10.30 更新)

## 1. 研修の目的

国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員が、大気中のアスベスト濃度を測定する上での技術的指針であるアスベストモニタリングマニュアルの知識及び一般環境試料を対象とした繊維状物質の測定技術（位相差顕微鏡法、分析走査電子顕微鏡法）を習得するとともに、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図ることを目的とする。

## 2. 期間および会場

### (1) 期間

令和5年11月6日（月）から11月10日（金）

※期間中は受講者全員合宿制となります。

### (2) 集合研修会場 環境調査研修所

所在地：〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

電話：04（2994）9766（教務課直通）

## 3. 教科内容

別紙のとおりとする。

## 4. 定員

6名

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 国及び地方公共団体等において環境分析業務を担当している職員で、一定の実務経験を有する者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 所属長の推薦を受けた者

## 6. 研修生推薦の有無

研修生を推薦する場合は、別紙様式による「被推薦者名簿」及び別添2の「実務経験調書」を添えて、令和5年9月8日(金)までに必着するよう環境調査研修所所長あて文書により通知すること。送付は電子での提出を基本とする。【提出先】教務課：[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6. の推薦に基づいて研修生を決定のうえ、推薦者にその旨を通知する。

## 8. 修了証書の交付

- ・受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。
- ・修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 9. 経費

次の経費は所属長の負担とする。

### （1）往復に必要な旅費

※ただし、環境省の職員については、環境調査研修所から支給する。

### （2）滞在費

※ただし、国家公務員（独立行政法人職員を除く。）については、日額旅費を環境調査研修所から支給する。

## 10. 日程について

別添3「日程表（令和5年度アスベスト分析研修）（案）」のとおり。

\*次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」

（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を掲載しております。）

別紙

○ 教科内容

1. 基調講義（アスベストの定義と大気中アスベストモニタリング方法）・・・	1. 5
2. 講義（(仮) 電子顕微鏡によるアスベスト測定法）・・・・・・・・・・	1. 5
3. 実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22. 5
4. ゼミナール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1. 5
5. その他（開講式、閉講式、オリエンテーション、実習準備等）・・・・・・	3. 5
合計	30. 5時間

○ 実習内容

実習項目	目的及び方法	実習内容の概要
大気中のアスベスト分析	大気中のアスベスト分析(位相差顕微鏡法及び分析走査電子顕微鏡法)の原理と分析技術の習得	1. サンプリング 2. 試料作成 3. 測定法 位相差顕微鏡法 (PCM法) 分析走査電子顕微鏡法 (A-SEM法)

○ 外部講師

- 【講義】アスベストモニタリングマニュアル検討委員（1名）
- 【実習】位相差顕微鏡メーカー指導員（2名）
- 電子顕微鏡メーカー指導員（1名）
- アスベスト分析技術者（2名）

(注)

1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 集合研修初日の施設説明は10:00より行う予定です。9:30までに入所してください。
3. 集合研修最終日は15:45に終了する予定ですが、研修時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機、列車の時間等により講義等や閉講式を欠席することは認めません。

## 令和5年度アスベスト分析研修 日程表

環境省環境調査研修所

9:30		11:00			11:15		12:45		13:45		15:15		15:30		17:00		17:15	
					(休憩)		(昼休み)				(休憩)							
11月6日 (月)		10:00 開講式	オリエン テーション	11:00 実習オリエンテー ション	11:15～12:45 【基調講義】アスベストの定義と大気中アスベストモニタリング方法			13:45～15:15 【実習】サンプリング			15:30～17:00 【実習】位相差顕微鏡法							
					独立行政法人労働者健康安全機構 フェロー研究員 神山 宣彦			環境調査研修所 教官 本多 将俊										
11月7日 (火)	8:50 ～ 9:20 実習 準備 等	9:30～11:00 【実習】位相差顕微鏡法			11:15～12:45 【実習】位相差顕微鏡法			13:45～17:00 【実習】位相差顕微鏡法										
					環境調査研修所 教官 本多 将俊 (株)エビデント 津村 潤 (株)ニコンソリューションズ 橋本 雄一 (株)環境管理センター 飯田 裕貴子 (株)環境管理センター 奥村 謙介			同左			同左							
11月8日 (水)	8:50～ 9:20 実習 準備 等	9:30～11:00 【講義】電子顕微鏡によるアスベスト測定法			11:15～12:45 【実習】分析走査電子顕微鏡法			13:45～17:00 同左										
					(公社)日本環境技術協会 理事 平野 耕一郎			環境調査研修所 教官 本多 将俊 日本電子(株) 溜池あかね			同左							
11月9日 (木)	8:50～ 9:20 実習 準備 等	9:30～11:00 【実習】分析走査電子顕微鏡法			11:15～12:45 【実習】分析走査電子顕微鏡法			13:45～17:00 【実習】分析走査電子顕微鏡法										
					環境調査研修所 教官 本多 将俊 日本電子(株) 溜池あかね			同左			同左							
11月10日 (金)	8:50～ 9:20 実習 準備 等	9:30～12:45 【実習】レポート作成			13:45～15:15 【ゼミナール】			15:30～										
					環境調査研修所 教官 本多 将俊			環境調査研修所 教官 本多 将俊		閉 講 式								

○指導教官 本多 将俊

○使用教室 開講式、閉講式:本館第5教室  
オリエンテーション:本館第5教室  
講義→本館第4教室

実習(サンプリング、位相差顕微鏡法)→実習棟1階

実習(分析走査電子顕微鏡法)、レポート作成、ゼミナール→特殊実習棟1階

○最終日は15:45終了予定となっておりますが、講義時間の延長等により遅れる場合があります。帰路の交通機関の利用等による閉講式の欠席は認めません。

○現時点における案であり、都合により内容等を一部変更することがあります。

令和5年4月

令和5年度 研修支援教材公開のご案内

環境省 環境調査研修所

お世話になっております。

環境調査研修所では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度以降の集合研修について、実施を見合わせております。分析研修への参加を希望されている皆様にはご迷惑とご心配をおかけいたしております。このような状況の中、研修代替措置の一環として、令和3年度より研修支援教材の配信を実施してまいりました。これは、化学分析・機器分析に関連した基本的知識について、本来、研修参加によって得られることが期待されるものを、一部ではありますが、配信を通じて提供することを目的としたものです。

令和5年度は、集合研修の段階的な再開を目指すとともに、引き続き、環境モニタリング業務の実務を担当される国・地方自治体、および関連団体を対象とした研修支援教材の公開を行います。内容は、環境分析、機器分析、化学分析や、環境汚染に関する基礎的な知識習得を目的とした動画教材です。

配信スケジュールは以下を予定しております。

令和5年6月7日(水) ～ 令和5年9月29日(金)

別紙には今回公開予定(作成予定を含む)の研修支援教材の一覧を示しております。

なお、研修支援教材は、**教材の閲覧希望者が所属する組織・機関に限定して**公開いたします。これらの教材の閲覧を希望する**組織・機関**におかれましては、別添ファイルの登録者フォームに必要事項をご記入の上、**各組織・機関のご担当者**から下記の研修所・教務課担当者までご連絡ください。後日登録されたご担当者宛に教材の配信のURLを研修所より直接お知らせいたします。

それでは、皆様よろしくお願ひ致します。

本件に関する問合せ先  
環境省 環境調査研修所  
教務課 担当 森

04-2994-9766

[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 令和5年度 研修支援教材(分析関係)の公開要領

### 1. 目的

環境調査研修所では、多岐にわたる環境分析の課題に現場で対処する能力向上を図る観点から、各研修の実施に当たり、双方向性のカリキュラム、研修生間の交流を重視してきました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、合宿制による集合研修を従来通りに実施することは未だ困難となっています。

そのため、従来の研修に代わり、国及び地方公共団体等において環境分析業務に携わる職員を対象とした動画教材を作成・配信し、環境分析業務の遂行に必要な専門的知識習得や技能向上を支援することを目的とします。

### 2. 教材の公開期間及び配信方法

- (1)公開期間:令和5年6月7日(水)～令和5年9月29日(金)頃を予定
- (2)動画配信方法:環境調査研修所公式チャンネル(YouTube)

### 3. 作成予定の支援教材

別紙のとおり

### 4. 閲覧主対象者

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1)本支援教材の視聴希望を出した機関に所属している者
- (2)当該機関において、環境分析業務を担当している者
- (3)当該支援教材の受信に支障のない機器等の環境が整備できる者

### 5. 配信対象団体

本研修支援教材の閲覧希望を出した国・地方自治体および関連団体

### 6. 経費

配信教材の視聴等に関する経費は、配信対象の団体・機関の負担とする。

## 【別紙】

### 「公開予定の研修支援教材タイトル」

- 計量器具の取り扱い方および分析値の取り扱い方 宮下 文秀 ((株) 島津総合サービス)
- 分離分析化学の基礎 梅村 知也 (東京薬科大学)
- クロマトグラフィーを用いる環境分析 四ノ宮 美保 (大妻女子大学)
- GC/MS 及び LC/MS の基礎 笠間 健嗣 (東京理科大学)
- 固相抽出法の基礎操作 下藤 辰也 (ジューエルサイエンス株式会社)
- 環境分析に要求される超純水について 黒木 祥文 (ヴェオリア・ジェネッツ株式会社)
- クロマトグラフィーの基礎 (GC) 熊田 英峰 (東京薬科大学)
- GC・GC/MS 分析における試料導入 熊田 英峰 (東京薬科大学)
- VOCs 分析法の解説 岩村 幸美 (元 環境調査研修所)
- GC カラムの基礎 (仮) ジューエルサイエンス株式会社
- 液体クロマトグラフィーの基礎知識 梅村 知也 (東京薬科大学)
- LC の基礎 田中 佳奈 (ジューエルサイエンス株式会社)
- LC/MS/MS の基礎 緒方 幸恵 (株式会社エービー・サイエックス)
- イオンクロマトグラフィーの基礎 中谷 暢丈 (酪農学園大学)
- 水中有機化学物質の固相抽出 下藤 辰也 (ジューエルサイエンス株式会社)
- 溶出試験の実際と課題 水谷 聡 (大阪公立大学)
- マイクロ波加熱分解法 後藤 将治 (マイルストーンゼネラル社)
- 金属類の分析法 古川 真 (PerkinElmer Japan)
- ICP-MS による微量元素分析の実際 -環境水試料を例として- 藤森 英治 (環境調査研修所)
- 環境分析の前処理について -キレート樹脂濃縮法による環境水試料の前処理- 藤森 英治 (環境調査研修所)
- エアーサンプラーの基礎 小島 謙太郎 (柴田科学 (株))
- PM2.5 サンプラーの基礎 宇田川 智 (東京ダイレック (株))
- 試料の採取及び検体の調整方法 環境省 環境保健部環境安全課 (作製当時)
- 位相差顕微鏡の基礎 株式会社ニコンソリューションズ
- 気中アスベスト分析のための位相差顕微鏡の取扱い 田中 隆明 (尙技術士事務所)
- 位相差顕微鏡法によるアスベスト分析 (1) 飯田 裕貴子 (株式会社環境管理センター)
- 位相差顕微鏡法によるアスベスト分析 (2) 飯田 裕貴子 (株式会社環境管理センター)
- 走査電子顕微鏡の原理 高島 良子 日本電子株式会社
- 生物顕微鏡の取扱い 田中 隆明 尙技術士事務所
- 実体顕微鏡の取扱い 田中 隆明 尙技術士事務所
- プランクトン観察の基礎 一瀬 諭 (元 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- 環境汚染物質による生態系への影響 国末 達也 (愛媛大学 沿岸環境科学研究センター)
- (タイトル未定) 柴田 康行 (前 東京理科大学 環境安全センター)
- 化学物質の安全対策 (仮) 富田 賢吾 (名古屋大学環境安全衛生管理室)

令和5年8月

令和 5年度 研修支援教材公開のご案内(後期)

環境省 環境調査研修所

お世話になっております。

環境調査研修所では、コロナ禍において集合研修を中止せざるを得ない状況の中で、研修代替措置の一環として、令和3年度より研修支援教材の配信を実施してまいりました。これは、化学分析・機器分析に関連した基本的知識について、本来、研修参加によって得られることが期待されるものを、一部ではありますが、配信を通じて提供することを目的としたものです。

令和5年度は、前期に続き、集合研修の段階的な再開を目指すとともに、引き続き、環境モニタリング業務の実務を担当される国・地方自治体、および関連団体を対象とした研修支援教材の公開を行います。内容は、環境分析、機器分析、化学分析や、環境汚染に関する基礎的な知識習得を目的とした動画教材です。

配信スケジュールは以下を予定しております。

令和5年10月2日(月) ～ 令和6年3月29日(金)

別紙には今回公開予定(作成予定を含む)の研修支援教材の一覧を示しております。

なお、研修支援教材は、**教材の閲覧希望者が所属する組織・機関に限定して**公開いたします。これらの教材の閲覧を希望する**組織・機関**におかれましては、別添ファイルの登録者フォームに必要事項をご記入の上、**各組織・機関のご担当者**から下記の研修所・教務課担当者までご連絡ください。後日登録されたご担当者宛に教材の配信のURLを研修所より直接お知らせいたします。

それでは、皆様よろしくお願ひ致します。

本件に関する問合せ先  
環境省 環境調査研修所  
教務課 担当 森  
04-2994-9766  
[KYOMU\\_KA@env.go.jp](mailto:KYOMU_KA@env.go.jp)

## 令和5年度 研修支援教材(分析関係)の公開要領(後期)

### 1. 目的

環境調査研修所では、多岐にわたる環境分析の課題に現場で対処する能力向上を図る観点から、各研修の実施に当たり、双方向性のカリキュラム、研修生間の交流を重視してきました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、合宿制による集合研修を従来通りに実施することは未だ困難となっています。

そのため、従来の研修に代わり、国及び地方公共団体等において環境分析業務に携わる職員を対象とした動画教材を作成・配信し、環境分析業務の遂行に必要な専門的知識習得や技能向上を支援することを目的とします。

### 2. 教材の公開期間及び配信方法

- (1)公開期間:令和5年10月2日(月)～令和6年3月29日(金)頃を予定
- (2)動画配信方法:環境調査研修所公式チャンネル(YouTube)

### 3. 作成予定の支援教材

別紙のとおり

### 4. 閲覧主対象者

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1)本支援教材の視聴希望を出した機関に所属している者
- (2)当該機関において、環境分析業務を担当している者
- (3)当該支援教材の受信に支障のない機器等の環境が整備できる者

### 5. 配信対象団体

本研修支援教材の閲覧希望を出した国・地方自治体および関連団体

### 6. 経費

配信教材の視聴等に関する経費は、配信対象の団体・機関の負担とする。

【別紙】

「公開予定の研修支援教材タイトル」

- 計量器具の取り扱い方および分析値の取り扱い方 宮下 文秀 ((株) 島津総合サービス)
- 分離分析化学の基礎 梅村 知也 (東京薬科大学)
- クロマトグラフィーを用いる環境分析 四ノ宮 美保 (大妻女子大学)
- GC/MS 及び LC/MS の基礎 笠間 健嗣 (東京理科大学)
- 水中有機化学物質の固相抽出 下藤 辰也 (ジューエルサイエンス株式会社)
- 環境分析に要求される超純水について 黒木 祥文 (ヴェオリア・ジェネッツ株式会社)
- クロマトグラフィーの基礎 (GC) 熊田 英峰 (東京薬科大学)
- GC・GC/MS 分析における試料導入 熊田 英峰 (東京薬科大学)
- VOCs 分析法の解説 岩村 幸美 (元 環境調査研修所)
- GC カラムの取扱いと選び方 Restek 株式会社
- 液体クロマトグラフィーの基礎知識 梅村 知也 (東京薬科大学)
- LC の基礎 田中 佳奈 (ジューエルサイエンス株式会社)
- LC/MS/MS の基礎 緒方 幸恵 (株式会社エービー・サイエックス)
- イオンクロマトグラフィーの基礎 中谷 暢丈 (酪農学園大学)
- 水中有機化学物質の固相抽出 下藤 辰也 (ジューエルサイエンス株式会社)
- 溶出試験の実際と課題 水谷 聡 (大阪公立大学)
- マイクロ波加熱分解法 後藤 将治 (マイルストーンゼネラル社)
- 金属類の分析法 古川 真 (PerkinElmer Japan)
- ICP-MS による微量元素分析の実際 - 環境水試料を例として - 藤森 英治 (環境調査研修所)
- 環境分析の前処理について - キレート樹脂濃縮法による環境水試料の前処理 - 藤森 英治 (環境調査研修所)
- エアーサンプラーの基礎 小島 謙太郎 (柴田科学 (株))
- PM2.5 サンプラーの基礎 宇田川 智 (東京ダイレック (株))
- 試料の採取及び検体の調整方法 環境省 環境保健部環境安全課 (作製当時)
- 位相差顕微鏡の基礎 株式会社ニコソリューションズ
- 気中アスベスト分析のための位相差顕微鏡の取扱い 田中 隆明 (尙技術士事務所)
- 位相差顕微鏡法によるアスベスト分析 (1) 飯田 裕貴子 (株式会社環境管理センター)
- 位相差顕微鏡法によるアスベスト分析 (2) 飯田 裕貴子 (株式会社環境管理センター)
- 走査電子顕微鏡の原理 高島 良子 日本電子株式会社
- 生物顕微鏡の取扱い 田中 隆明 尙技術士事務所
- 実体顕微鏡の取扱い 田中 隆明 尙技術士事務所
- プランクトンの検索・同定及び水質評価 (講義 実習) 一瀬 論 (元 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)
- 環境汚染物質による生態系への影響 国末 達也 (愛媛大学 沿岸環境科学研究センター)
- 残留性有機汚染物質に関わるストックホルム条約-PFAS を中心に - 柴田 康行 (前 東京理科大学 環境安全センター)
- 化学物質の安全な取り扱いのために 富田 賢吾 (名古屋大学環境安全衛生管理室)

# 令和5年度環境省新採用職員研修実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

新たに環境省職員として環境行政を推進するにあたり、必要な基礎的知識及び環境行政全般にわたる基本的な考え方、ビジネスマナーや職場におけるコミュニケーションなど、業務に携わる際の基本的事項を学ぶ。

## 2. 期間及び会場

(1) 期間 令和5年4月4日(火)、6日(木)、21日(金)の3日間

(2) 会場 ・4月4日(火)、6日(木) オンライン講義

・4月21日(金) 環境調査研修所にて実施

〒359-0041 埼玉県所沢市並木3-3、電話：04-2994-9766

## 3. 教科内容 裏面のとおり

## 4. 研修予定人員 80名程度

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当し、所属長の推薦を受けた者とする。

(1) 令和5年度に環境省採用予定の職員またはこれと同等と認められる者

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(3) 研修所での集合研修に参加できる者

## 6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、推薦書に別紙様式による「被推薦者名簿」を添えて、**令和5年3月30日(木)までに**、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。推薦後に変更があれば速やかに知らせること。

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

## 8. 研修結果の通知

所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した場合に本研修を修了したものとし、研修終了後所属長に受講の結果を通知する。

## 9. 経費

本省や関東地方環境事務所に勤務する職員が日帰りで参加する場合は、通常の外勤と同様、本省所属部署においてPASMO等IC乗車券の使用により旅費を負担するものとし、それ以外の場合の往復に必要な旅費及び日額旅費は環境調査研修所において負担する。

なお、別途、滞在費として必要な食費、雑費等を徴収する。

\*参考：環境調査研修所ホームページ (URL <http://www.neti.env.go.jp>)

# 令和5年度環境省新採用職員研修教科内容

## 1. 環境行政の概況や基本的な考え方

- (1) 環境行政の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (2) 原子力規制行政について・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (3) 環境行政の現場業務（福島環境再生等）・・・・・・・・ 50分
- (4) 地球環境局について・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (5) 自然環境局について・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (6) 総合環境政策統括官グループについて・・・・・・・・ 30分
- (7) 地域脱炭素推進審議官グループについて・・・・・・・・ 30分
- (8) 環境保健部について・・・・・・・・・・・・・・・・ 30分
- (9) 水・大気環境局について・・・・・・・・・・・・・・・・ 30分
- (10) 環境再生・資源循環局について・・・・・・・・・・・・ 30分

## 2. 環境省業務に携わる際に必要な基礎知識や基礎的事項

- (1) 服務、倫理、ハラスメント等／秘書課について・・・・・・・・ 50分
- (2) 環境省ネットワークシステムと情報セキュリティ対策／環境情報室について・・・・・・・・ 80分
- (3) 予算成立過程及び会計実務／環境省本省の過ごし方／会計課について・・・・ 40分
- (4) 文書管理、国会実務（法律成立過程）／大臣官房総務課について・・・・ 60分

## 3. ビジネスマナーや職場におけるコミュニケーションの習得

- (1) 新採用職員向け職場のコミュニケーション・・・・・・・・ 120分
- (2) コミュニケーション（自己紹介）・・・・・・・・・・・・ 50分

※受講に当たっては、別途連絡する視聴教材により各自事前学習を行うこと。

## 4. 演習

先輩職員を囲んで～環境省職員として働くこと～・・・・ 90分

合計 14時間50分

(注)

- 教科内容は、都合により一部変更になることがあります。
- 講義時間の延長等により研修の終了が若干遅れる場合があります。
- なお、本研修を受ける自然系職員は、別途4/20（木）に本省にて自然環境局総務課が行う業務説明会に参加すること。

# 令和5年度環境省新採用職員研修日程表

環境調査研修所

月 日											
4月4日 (火) ※オンライン	10:00～10:50 【講義】環境行政の現況 大臣官房総合政策課 課長補佐 安田 将人	11:00～11:50 【講義】服務、倫理、ハラスメント等／秘書課について 大臣官房秘書課 課長補佐 岩田 成実	12:00～13:00 昼休み	13:30～14:50 【講義】環境省ネットワークシステムと情報セキュリティ対策／環境情報室について 大臣官房総務課環境情報室 室長補佐 本間 康弘	15:00～15:40 【講義】予算成立過程及び会計実務／環境省本省の過ごし方／会計課について 大臣官房会計課 課長補佐 中野 剛、課長補佐 辻脇 基成	15:50～16:50 【講義】文書管理等について／国会実務について／大臣官房総務課について 大臣官房総務課 課長補佐 小林 浩治、課長補佐 松本 行央					
4月6日 (木) ※オンライン	10:00～10:50 【講義】原子力規制行政／原子力規制庁について 原子力規制委員会原子力規制庁 長官官房人事課 企画官 根塚 崇喜	11:00～11:50 【講義】被災地の環境再生／福島地方環境事務所について 福島地方環境事務所 次長 成田 浩司	12:00～13:00 昼休み	13:00～13:50 【講義】地球環境局について 地球環境局総務課 課長補佐 小沼 信之	14:00～14:50 【講義】自然環境局について 自然環境局総務課 課長補佐 中村 真紀	15:00～15:30 【講義】総合環境政策統括官Gについて 大臣官房総合政策課 課長補佐 安田 将人	15:30～16:00 【講義】地域脱炭素推進審議官Gについて 大臣官房地域政策課 課長補佐 三田 裕信	16:15～16:45 【講義】環境保健部について 環境保健部環境保健企画管理課 課長補佐 中島 治彦	16:45～17:15 【講義】水・大気環境局総務課について 水・大気環境局総務課 課長補佐 清水 延彦	17:15～17:45 【講義】環境再生・資源循環局総務課について 環境再生・資源循環局総務課 課長補佐 黒部 一隆	
4月21日 (金)	10:30～12:30(15分の休憩含む) 【講義・演習】新採用職員向け職場のコミュニケーション（社会人としての心構え、ビジネスマナー、電話対応／クレーム対応、上司・同僚・外部との付き合い方・接し方、チームワーク・ビルディング、セルフ・コントロール） 株式会社インソース 中島 史絵、内西 徹	12:30～13:30 昼休み	13:30～14:20 【演習】コミュニケーション（自己紹介）	14:30～17:00（15分の休憩含む） 【演習】先輩職員を囲んで ～環境省職員として働くこと～ ●討議助言者（環境省先輩職員） 環境調査研修所庶務課会計係 細田 真衣 大臣官房秘書課任用第一係 平川 達希 地球環境局総務課企画法令係 石田 大貴 水・大気環境局水環境課海洋環境室 和田 佳保里 環境影響評価課環境影響審査室 福田 朋也 環境再生・資源循環局廃棄物規制課規制係 上野 友輔 自然環境局国立公園課事業係 内海 真弓 自然環境局総務課動物愛護管理室飼養管理係 大嶋 達也							

○4/21使用教室：環境調査研修所 本館3階講堂

- 注）・終了時刻は、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。  
 ・4月4日・6日のオンライン講義配信について、接続先アドレスは別途ご連絡します。  
 ・4月21日の集合研修について、帰路の航空機、列車時間等により、講義等を欠席することは認めません。  
 ・別途、ビジネスマナー等に係る視聴教材を視聴していただきます。  
 ・本研修を受ける自然系職員は、別途4/20（木）に本省にて自然環境局総務課が行う業務説明会に参加していただきます。

# 令和5年度環境省職員研修（課長補佐級）（分散開催）実施要綱

環境調査研修所

## 1. 目的

環境行政は、時代の要請を踏まえ、新たな課題への対応を迅速に行うことが重要である。そのため、必然的に、新規かつ前例の無い業務が増大し、またそれぞれの業務も専門的かつ複雑化する傾向がある。ここ10年程度で見ても、東日本大震災対応等、環境省が担う行政範囲は飛躍的に拡大し、業務は急激に拡大してきた。また、現在の職場は、これまでと比べ、育児・介護等の多様な家庭事情を有する職員や任期付き職員、出向職員が増えるなど職員構成が多様化し、各職員の仕事に対する意識も変化している。こうした中、2050年カーボンニュートラルの実現などに向けて、環境行政の更なる効果的かつ効率的な推進を図るためには、方針や目標を設定してメンバーと共有・深化させるとともに、職員一人一人の能力を最大限に発揮させ、また育成しつつ、できるだけ効率的に目標達成を図るといったマネジメント能力の向上が急務である。

このような背景から、当研修では、指導的立場にある職員を対象に、業務・人材マネジメントやコーチングといった手法のスキルアップ、意識の向上を図る。

## 2. 期間及び実施方法

(1) 期間：概ね令和5年7月～8月の間のうち、開催場所ごとに集合研修実施日（1日間）を調整し、決定する。

(2) 開催場所：①北海道地方環境事務所、②東北地方環境事務所、③福島地方環境事務所、④関東地方環境事務所、⑤中部地方環境事務所、⑥近畿地方環境事務所、⑦中国四国地方環境事務所、⑧九州地方環境事務所、⑨環境調査研修所の各事務所等における会議室等（合計9か所）

※被推薦者の所属が本省の場合、環境調査研修所での受講、所属が地方分局の場合、所属の地方環境事務所での受講とする。

(3) 実施方法：

各地方環境事務所8か所及び環境調査研修所において、それぞれ1日間の講義・演習による対面での集合研修を実施する。集合研修に先立ち管理職の役割等に係る事前学習を行い、集合研修後に理解度確認チェックを行うとともに、研修受講から概ね一か月後にフォローアップ・オンライン面談を実施する。

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 各箇所10～20名程度（計90～180名程度）

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 環境省の職員で、職場における指導的立場にある者（概ね、本省課長補佐、地方支分部局課長クラスで、それぞれの職場において、業務・人材マネジメントにおいて核となることが想定される者であることが望ましい。）

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

## 6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、推薦書に別紙様式による「被推薦者名簿」を添えて、令和5年7月11日（火）までに、環境調査研修所あて文書により通知すること。「被推薦者名簿」は開催場所ごとに1シートとすること。

なお、送付は電子での提出を基本とする。

【提出先】：KYOMU\_KA@env. go. jp

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

## 8. 修了証書の交付

受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後所属長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 9. 経費

必要な旅費等が発生する場合は、所属部局等が負担するものとする。

## 環境省職員研修（課長補佐級）教科内容

1. <講義・演習>マネジメントの基礎・基本、業務・人材のマネジメント、相手のタイプに応じたコミュニケーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・6.0時間

（注）上記のほか、事前学習（1～2時間程度）及び事後の理解度確認チェックを行うこと。また、研修受講後1か月経過後に、フォローアップ・オンライン面談を受講すること。  
（注）都合により一部内容を変更することがあります。

## 令和5年度環境省職員研修(課長補佐級)(分散開催)日程表

## 環境調査研修所

		※会場によっては開始時間が前後します。		※会場によっては終了時間が前後します。	
		10:00	12:00 13:00	15:00 15:15	17:00
			(昼休み)	(休憩)	
各開催日程		10:00～12:00		13:00～17:00	
@各会場		<p>【講義・演習】マネジメントの基礎・基本、業務マネジメント (グループワーク等)</p> <p>株式会社市進ホールディングス 講師 林 悦生 福田 信之 柳 裕樹 栗原 ゆき子</p> <p>※上記のうち一名が各開催場所にて講義予定。</p>		<p>【講義・演習】人材のマネジメント、相手のタイプに応じた コミュニケーション(グループワーク等)</p> <p>株式会社市進ホールディングス 講師 林 悦生 福田 信之 柳 裕樹 栗原 ゆき子</p> <p>※上記のうち一名が各開催場所にて講義予定。</p>	

○研修場所: 会場ごとに会議室等を研修場所として利用します。

1. 日程表は都合により一部変更する場合があります。
2. 集合研修前に事前学習、集合研修後に理解度確認チェック及びオンライン面談を実施します。

# 令和5年度自然保護官等研修 実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

環境省入省1年目で、環境省本省又は地方環境事務所に配属され、未だ自然環境行政の現場の最前線である自然保護官事務所勤務を経験していない自然系技官の職員(他省庁からの配転者を含む。)が、最低限必要となる自然環境行政全般にわたる基礎知識を身に付け、先輩自然保護官等との意見交換を通して「レンジャー」としての基本的な心構えについて理解し、近い将来自然保護官として現場の第一線に立つための心の準備をする。併せて、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

## 2. 期間及び会場

(1) 期間 令和6年1月30日(火)から2月2日(金)まで(4日間)

期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 会場 環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3  
TEL 04(2994)9766

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 25名

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 環境省の職員で国立公園管理、野生生物保護の業務を担当している、又は担当しうる者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

## 6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」を令和5年12月11日(月)までに必着するよう、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

## 8. 事前課題

以下2点について事前に作成して期日までに提出すること。なお、当該事例作成以外にも事前学習等の連絡を別途行う予定である。

行政事例

「(別添3)自然保護官等研修・行政事例の作成について」のとおり、事例を作成し提出すること。

自己紹介カード

「(別紙4)自己紹介カードの作成について」のとおり作成して提出すること。

## 9. 修了証書の交付

受講の状態(修了または未修了)については、研修終了後大臣官房秘書課長に通知する。なお、所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した場合に修了とする。修了した場合、希望者に対して修了証書(電子データ)を交付する。

## 10. 経費

(1) 往復に必要な旅費

環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

日額旅費を環境調査研修所から支給する。

\* 研修受講に当たっての留意事項に関する情報を記載した「研修受講ガイドブック」を環境調査研修所ホームページ（URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>）に掲載しておりますので御参照ください。

## 自然保護官等研修 教科内容

- |  |          |
|--|----------|
| 1. 基調講義 - これからの自然環境行政の展望 - ( と合同)  | 1.5 時間   |
| 自然環境行政のこれからの展開や方向性について、自然系技官である環境省幹部から話を聞くことで、現場の第一線で自然環境行政を担う者としての立場を認識し、今後の自らの職務への取り組み方についてイメージする。   |          |
| 2. レンジャーの仕事を理解する   | 2.0 時間   |
| 自然環境行政の基盤は、現地管理体制である。それを担う自然保護官、「レンジャー」の行動の軸とすべき基本的な考え方について理解し、職場内外の関係者とのコミュニケーションのあり方、日々の業務への向き合い方などについて考える。さらに、行政事務に携わる者としての基本的な心構えや業務の進め方、注意点等について学ぶ。                                 |          |
| (1) レンジャーのイロハ  | 1.5 時間   |
| (2) 役人のイロハ   | 0.5 時間   |
| 3. 自然環境行政概論  | 7.5 時間   |
| 自然環境行政の施策の概要を知り、基本的な考え方を理解する。  |          |
| (1) 生物多様性概論  | 1.5 時間   |
| (2) 国立公園概論   | 3.0 時間   |
| (3) 野生生物概論   | 3.0 時間   |
| 4. 国立公園から社会・経済を考える   | 3.0 時間   |
| 国立公園の景観や自然環境は、地域の社会・経済と相互作用の関係にある。地域の資源である自然環境は、暮らしや事業の基盤となり、その変化は自然環境の変化をもたらす。自然保護官がこの資源を将来に引き継ぐ要として機能するためには、社会・経済の分野と協働することが不可欠であり、異なる分野との企画を立案して実行するための心構えや技術について学ぶ。                  |          |
| 5. ゼロカーボンに向けた現場の進め方と官民学金の連携( と合同)  | 1.5 時間   |
| 2030年ネイチャーポジティブの目標に向け、自然資源やその恵みを活用しながら、気候変動緩和・適応、資源循環、地域経済の活性化等の多様な社会課題の解決につなげていくことが求められている。地域脱炭素の現場での取組実態や多様な主体との連携等の企画調整の進め方について学び、これらの取組との連携により、自然環境行政の現場における取組やその手法の幅をさらに広げられるようにする。 |          |
| 6. グループ討議「レンジャーの業務について」  | 3.0 時間   |
| 現場の第一線で働くレンジャーとしての役割に対する認識を深め、業務に対する取り組み方や現地での生活、地域との付き合いなどについて考え、意見を交換することで、相互に啓発し、今後の各自の現場での取り組みに活かす。  |          |
| 7. 会計概論  | 1.5 時間   |
| 会計業務の概要を知り、基本的な考え方や現地における実務の基本について理解する。  |          |
| 8. フォロワーシップ研修  | 1.5 時間   |
| 職員が組織における自身の役割を理解し、職場内外に伝わる説明のしかた、他者の意見・立場に配慮しながら自身の意見を伝えるなど業務におけるコミュニケーションのとり方を学び、現地管理に反映できるようにする。  |          |
| 9. その他(開・閉講式、オリエンテーション、自主討議等)  | 2.25 時間  |
| 合計   | 23.75 時間 |

(注)

1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 開講式は、10時より行う予定です。9時30分までに入所してください。
3. 閉講式は15時45分に終了する予定ですが、若干遅れる場合もあります。
4. 帰路の航空機や列車の時間等により最終日の講義や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度自然保護官等研修Ⅰ 日程表

	9:30	10:00	10:30	10:45	11:00	11:15	(休憩)	12:15	12:45	(昼休み)	13:45	15:15	15:30	(休憩)	17:00	
1月30日 (火)		10:00～ 10:30(0.5h) 開講式 オリエンテー ション			10:45～12:15(1.5h) 【講義】レンジャーのイロハ 環境省中国四国地方環境事務 所 生物多様性保全企画官 秀田 智彦			12:15～ 12:45(0.5h) 【講義】役人 のイロハ 環境省大臣 官房秘書課 地方環境室 調整専門官 櫻又 涼子			13:45～17:00(3.0h) ※15:15～15:30休憩 【グループ討議】レンジャーの業務について 環境省自然環境局野生生物課 野生生物専門官 末永 珠佑 環境省自然環境局総務課動物愛護管理室 飼養管理係長 大嶋 達也 環境省大臣官房秘書課業務改革推進室 係員 田宮 沙知子 環境省関東地方環境事務所片品自然保護官事務所 自然保護官 服部 優 樹					
1月31日 (水)	8:50 ～9:20	9:30～12:45(3.0h) ※11:00～11:15休憩 【講義、演習】国立公園概論 環境省自然環境局国立公園課 課長補佐 藤井 沙耶花 計画係 仲原 沙希 環境省自然環境局国立公園課国立公園利用推進室 室長補佐 川瀬 翼 環境省関東地方環境事務所自然環境整備課 自然保護官 小保根 聡										13:45～17:00(3.0h) ※15:15～15:30休憩 【講義、演習】野生生物概論 環境省自然環境局野生生物課 課長補佐 七目木 修一 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 係長 早瀬 穂奈実 環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室 室長補佐 藤田 道男				
2月1日 (木)	自主討議	9:30～12:45(3.0h) ※11:00～11:15休憩 【講義、討議】国立公園から社会・経済を考える 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 所長 岡野 隆宏									13:45～15:15(1.5h) 【講義】ゼロカーボンに向けた現 場の進め方と官民学金の連携(Ⅲ と合同) 環境省北海道地方環境事務所 統括環境保全企画官 田村 努		15:30～17:00(1.5h) 基調講義(Ⅲと合同) 環境省地域脱炭素推進審議官 植田 明浩			
2月2日 (金)		9:30～11:00(1.5h) 【講義、討議】生物多様性概論 環境省自然環境局自然環境計画課 課長補佐 石川 拓哉			11:15～12:45(1.5h) 【講義】会計概論 環境省自然環境局総務課 予算決算係長 古川 由美子 課長補佐 滝澤 玲子						13:45～15:15(1.5h) 【講義】フォローシップ研修 株式会社インソース 前野 謙		15:30～ 15:45 閉講式			

○使用教室: 本館講堂(予定)

1. 日程表は都合により一部変更する場合があります。
2. 開講式は10時から行います。9時45分までに会場(本館3階講堂)にお越しください。
3. 最終日の閉講式終了時間は15時45分を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度自然保護官等研修Ⅱ実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

環境省入省2年目程度で、自然環境行政の現場の最前線である自然保護官事務所勤務を間もなく経験するか、または勤務1年目程度の自然系技官の職員が、自然保護官として独り立ちする際に最低限必要となる自然環境行政に関する知識・技術・考え方の基本を習得する。特に、自然保護官が自身の判断を直接的に求められる国立公園管理における必須の技術体系（特に風致判断に関すること等）について、その考え方を身につける。併せて、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

## 2. 期間及び会場

(1) 期 間：令和5年11月14日（火）から11月17日（金）まで（4日間）

※期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 場 所：環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3  
TEL 04(2994)9766

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 30名

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 環境省の職員で国立公園管理、野生生物保護の業務を担当している、又は担当しうる者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

## 6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」を令和5年9月29日（金）までに必着するよう、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

## 8. 事前課題

現地管理を進める上での必須事項となる「自らが担当する国立公園のビジョン（目指す姿）を明確にし、それを実現するためのロードマップを具体的に描き、それを関係者と共有すること」の重要性を理解するため、担当する国立公園の区域等をどのような姿にしていくのかを示したビジョンと、そのビジョンを実現するための具体的な手順・スケジュールを示したロードマップを記載した資料（公園業務経験のない研修生は、担当する自らの業務にかかるもの）を事前に作成し、「【講義】現地管理の実際」の中で研修生による発表と討論を行う予定。なお、詳細や不切、提出先等については別途連絡する。

## 9. 修了証書の交付

受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後大臣官房秘書課長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。

修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

## 10. 経 費

(1) 往復に必要な経費

環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

日額旅費を環境調査研修所から支給する。

11. 日程

別添2「令和5年度 自然保護官等研修Ⅱ 日程表(案)」のとおり。

\* 次の情報を環境調査研修所ホームページ(URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>) に掲載しておりますので御参照ください。

◎ 「研修受講ガイドブック」(研修受講に当たっての留意事項に関する情報を記載しております。)

## ○ 自然保護官等研修Ⅱ 教科内容

- 1【講義】国立公園行政の今後の展開 1.0時間  
 国立公園行政の基本的な方向性やこれからの展開について理解し、現場の第一線で自然環境行政を担う者として、今後の自らの職務への取り組み方について考える。
- 2【講義】レンジャーに期待すること 1.5時間  
 レンジャーが習熟すべき技術、業務における必要性、レンジャーとして仕事に向き合う際の基本的な考え方や心得等について学び、現場の最前線のレンジャーとしての自らのあり方、この研修での取り組み方を考える。
- 3【講義】国立公園現地業務の考え方のポイント 1.0時間  
 公園の指定から企画、整備、保護、管理運営に至る公園管理技術の体系的習得を念頭に、本研修の全体の導入となる考え方について理解する。
- 4【講義】国立公園の成立とその後の展開 1.5時間  
 昭和初期における国立公園の状況から戦後における自然公園の発展という自然公園制度の経過と特質について、専門の学識者から学ぶことで、現在の国立公園の背景について理解を深める。
- 5【講義、討議】現地管理の実際 4.5時間  
 「自らが担当する国立公園のビジョン（目指す姿）を明確にし、それを実現するためのロードマップを具体的に描き、それを関係者と共有すること」は、現地管理を進める上での必須事項である。研修生が予め作成し持ち寄った「ビジョンとロードマップ」について、発表と討論を行い、2日目以降の研修を経てこれらのグレードアップを図るための下地作りをする。
- 6【講義、演習】公園計画 ～ビジョンの具体化と公園計画策定の実務～ 4.5時間  
 各々の国立公園のビジョン（その公園（地域）を特徴付ける主要な保全対象やその保全・利用のあり方について明らかにした「目指すべき姿」）を具体的に表現することは、公園行政の一連の業務の出発点である。設定された国立公園のビジョンの実現を目指して、その公園の保全対象を保全し、望ましい利用形態を推進するために、規制や施設を計画するのが公園計画である。  
 両者の関係及び許認可や公園整備とのつながりを理解するとともに、計画策定の基本的な考え方や自然保護官として日々どのような点に着眼して“点検作業”を行うことが必要か等の実務の進め方について学ぶ。  
 また、グループに分かれて討議や実技を行い、公園計画策定に係る基本的な考え方を習得するとともに、調整のあり方について考える。
- 7【講義、演習】公園整備 ～公園事業の考え方と直轄整備計画策定の実務～ 4.5時間  
 公園の利用と管理における公園事業の役割や、執行者となる国・自治体・民間との連携など、公園事業に関する基本的な考え方について理解するとともに、現場において自然保護官が直面する地元市町村からの要請、期待等を知り、国の予算の現状を踏まえ、自然公園等事業をどのように進めていくのかその実務を学ぶ。
- 8【講義、演習】公園保護 ～風致判断と許認可指導の実務～ 4.5時間  
 公園の風景の劣化を最小限に抑えるのが許可指導業務である。風致判断の基礎や審査基準の記述内容が意味するもの、許可指導にあたる際の基本的な考え方や手順、留意事項等について学び、具体的な開発事例を題材に、効果的な対処方法等をグループ討議を通して、許可指導業務の基本を習得する。また、公園整備の一環である公園事業の認可指導業務について、許可指導業務と対比させながら学ぶ。
- 9 その他（開・閉講式、オリエンテーション） 0.45時間

合計 23.45時間

- (注)1. 都合により一部内容を変更することがあります。  
 2. 開講式は、10時00分より行う予定です。9時30分までに入所してください。  
 3. 閉講式は、15時45分に終了予定ですが、遅れる場合があります。  
 4. 帰路の航空機や列車の時間等により、最終日の講義や閉講式等を欠席することは認めません。

# 令和5年度 自然保護官等研修Ⅱ 日程表

8:30 9:00 9:30 10:00 11:00 12:00 12:45 13:45 15:00 16:00 17:00

		(休休み)						
11月14日(火)		10:00～10:30(0.5h) 開講式 オリエンテーション	10:30～11:30(1.0h) 【講義】国立公園行政の今後の展開 自然環境局国立公園課長 番匠 克二	休憩	11:45～12:45(1.0h) 【講義】国立公園現地業務の考え方のポイント 中国四国地方環境事務所 生物多様性保全企画官 秀田 智彦	13:45～15:15(1.5h) 【講義・討議】現地管理の実際(ビジョンとロードマップ)① 中国四国地方環境事務所 生物多様性保全企画官 秀田 智彦	休憩	15:30～17:00(1.5h) 【講義・討議】現地管理の実際(ビジョンとロードマップ)② 中国四国地方環境事務所 生物多様性保全企画官 秀田 智彦
11月15日(水)	8:50～9:20 【講義・討議】現地管理の実際(ビジョンとロードマップ)③ 秀田企画官	9:30～15:15(4.5h) ※11:15～11:30休憩 【講義・演習】公園計画(ビジョンの具体化と公園計画策定の実務) 北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所阿寒摩周国立公園管理事務所 所長 田中 準 自然環境局自然環境計画課生物多様性戦略推進室 室長補佐 松永 暁道 自然環境局国立公園課 課長補佐 藤井 沙耶花 計画係 仲原 沙希				同左	休憩	15:30～17:00(1.5h) 【講義】国立公園の成立とその後の展開 奈良県立大学 教授 水谷 知生
11月16日(木)	8:50～9:20 【講義・討議】現地管理の実際(ビジョンとロードマップ)④ 秀田企画官	9:30～15:15(4.5h) ※11:15～11:30休憩 【講義・演習】公園整備(公園事業の考え方と直轄整備計画策定の実務) 自然環境局自然環境整備課 課長補佐 二戸 治 課長補佐 石月 聖文 施設管理専門官 永緑 哲人 自然環境局総務課新宿御苑管理事務所 庭園第一科長 石鍋 健 自然環境局国立公園課 事業係長 本田 康介				同左	休憩	15:30～17:00(1.5h) 【講義】レンジャーに期待すること 江戸川大学 教授 中島 慶二
11月17日(金)	8:50～9:20 【講義・討議】現地管理の実際(ビジョンとロードマップ)⑤ 秀田企画官	9:30～15:15(4.5h) ※11:15～11:30休憩 【講義・演習】公園保護(風致判断と許可指導の実務(事業認可含む)) 東北地方環境事務所 国立公園課長 田畑 慎之介 九州地方環境事務所霧島錦江湾国立公園管理事務所 所長 松尾 浩司 自然環境局国立公園課 保護係長 高橋 佳大				同左	休憩	15:30～15:45 閉講式

●使用教室: 本館3階講堂

1. 日程表は都合により一部変更する場合があります。
2. 開講式は10時から行います。9時45分までに会場(本館3階講堂)にお越しください。
3. 最終日の閉講式終了時間は15時45分を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度自然保護官等研修Ⅲ実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

自然環境行政における施策の提案・実行役として、重要な役割を担う地方環境事務所等の現場の事務所では、近年組織構造の変化や多様な雇用形態の職員が増加しているほか、従来の国立公園管理や野生生物保護にとどまらない社会課題への対応や多様な主体との連携による高度な業務の企画調整等が求められており、組織や業務のマネジメントを担う職員の責務や役割の重要性が増している。

このため、当研修では、複数の職員・事務所の運営や、現地業務の高度な企画調整を担う職員を対象に、組織マネジメントやリスク管理の上で求められる知識の深化や能力の向上、高度な調整が求められる業務課題の遂行に必要な手法やプロセスを考え実行する能力の向上を図ることを目的とする。併せて、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

## 2. 期間及び会場

(1) 期間 令和6年1月31日(水)から2月2日(金)まで(3日間)

※期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 会場 環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3

TEL 04(2994)9766

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 15名

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 環境省の職員で国立公園管理、野生生物保護の業務を担当している、又は担当しうる者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

## 6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」を令和5年12月15日(金)までに必着するよう、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

## 8. 事前課題

「(別紙3)自然保護官等研修Ⅲ・行政事例の作成について」のとおり、事例を作成し提出すること。なお、当該事例作成以外に事前課題等の連絡を別途行う可能性がある。

## 9. 修了証書の交付

受講の状態(修了または未修了)については、研修終了後大臣官房秘書課長に通知する。なお、所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した場合に修了とする。修了した場合、希望者に対して修了証書(電子データ)を交付する。

## 10. 経費

(1) 往復に必要な旅費

環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

日額旅費を環境調査研修所から支給する。

\* 次の情報を環境調査研修所ホームページ（URL <http://neti.env.go.jp>）に掲載しておりますので御参照ください。

◎ 「研修受講ガイドブック」（研修受講に当たっての留意事項に関する情報を記載しております。）

## ○ 自然保護官等研修Ⅲ 教科内容

1. **基調講義ーこれからの自然環境行政の展望ー（Ⅰと合同）** 1. 5時間  
自然環境行政のこれからの展開や方向性について、自然系技官である環境省幹部から話を聞くことで、現場の第一線で自然環境行政を担う者としての立場を認識し、今後の自らの職務への取り組み方についてイメージする。
2. **マネジメント研修** 4. 5時間  
組織のリーダーに求められる役割を理解し、業務や自然系職員の管理、職場環境づくりのほか、リスクの予測と対策、発生時の対応など、マネジメントに係る知識を深めるとともに、研修生のマネジメントの課題や管内のリスクに関する演習・意見交換によりマネジメント能力の向上を図る。  
(1) 自然系職員のマネジメント 1. 5時間  
(2) リスクマネジメント 3. 0時間
3. **現地業務の企画調整プロセス** 9. 0時間  
2030年ネイチャーポジティブの実現に向け、自然資源やその恵みを活用しながら、気候変動緩和・適応、資源循環、地域経済の活性化等の多様な社会課題の解決につなげていくことが求められている。今後、自然環境施策を地域の社会状況やニーズ、人的・資金的資源に応じて実行していくためには、施策間の連携や、自治体や民間企業・団体、専門家などとの高度な企画調整、業務アレンジメントが重要となる。今後現地での実行が期待される施策について、取組状況について学ぶとともに、方策と必要な調整プロセスを考え議論する演習を行う。  
(1) ゼロカーボンに向けた現場の進め方と官民学金の連携（Ⅰと合同） 1. 5時間  
地域脱炭素の現場での取組実態や多様な主体との連携等の企画調整の進め方について学び、これらの取組と自然環境行政の現場における取組とを連携させ、限られた地域資源を効果的に活用していくための手法を考える。  
(2) 現地業務の企画調整プロセス1（自然共生サイト・民間活動の促進） 3. 0時間  
自然共生サイトや検討が進められている民間活動促進法制度について現在進められている取組や動きについて講義を通じて学ぶとともに、地方・現場における自然共生サイト等の促進策と調整プロセスを考え、議論を行う。  
(3) 集団施設地区等の上質化と官民連携 1. 5時間  
集団施設地区等において進められてきた民間投資の呼び込み、自治体や民間との連携、廃屋撤去と跡地活用、それに伴う国有財産整理など実際の取組に係る講義を通じて、利用拠点を再生・上質化していく上で必要となる調整プロセスを学ぶ。  
(4) 現地業務の企画調整プロセス2（利用拠点の面的魅力向上） 3. 0時間  
国立公園における利用拠点の面的向上について、先端モデル事業の選定地域等を例に対応策と必要な調整プロセスを考え、議論を行う。
4. **その他（開・閉講式、オリエンテーション、自主討議等）** 3. 25時間
- 合計 18. 25時間

(注)

1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 開講式は、10時より行う予定です。9時30分までに入所してください。
3. 閉講式は15時45分に終了する予定ですが、若干遅れる場合もあります。
4. 帰路の航空機や列車の時間等により最終日の講義や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度自然保護官等研修Ⅲ日程表

	9:30	10:00	10:30	11:00	11:15	12:45	13:45	15:15	15:30	17:00	17:15	18:15
				(休憩)		昼休み		(休憩)				
1月31日 (水)	8:50 ~9:20	開講式 オリエンテー ション	自主討議の 進め方 (ディスカッ ション)		【講義】自然系職員のマネジメン ト 環境省自然環境局総務課 調査 官 山本 麻衣		【講義、演習】リスクマネジメント 株式会社インソース 吉田 英策 環境省中国四国地方環境事務所生物多様性保全企画官 秀田 智彦					自主討 議
2月1日 (木)		自主討 議	【演習】現地業務の企画調整プロセス1(自然共生サイト・民間活動の促進) 環境省自然環境局自然環境計画課 課長 則久 雅司、課長補佐 石川 拓哉 ・導入講義(自然共生サイト・民間活動促進法制度等) ・グループディスカッション(地方・現場における自然共生サイト等の促進策)				【講義】ゼロカーボンに向けた現場の進め方と官民学金の連携(Iと合同) 環境省北海道地方環境事務所 統 括環境保全企画官 田村 努		基調講義(Iと合同) 環境省地域脱炭素推進審議官 植田 明浩			
2月2日 (金)			【討議】集団施設地区等の上質化 (廃屋撤去、官民連携、国財整理など の事例をもとにプロセスを学ぶ) ※発表者:研修生の中から選定 環境省自然環境局国立公園課 課長 番匠 克二		【演習】現地業務の企画調整プロセス2(利用拠点の面的魅力向上) 環境省自然環境局国立公園課 課長 番匠 克二、課長補佐 山崎 麻里 ・導入講義、演習説明、対象地域概要等 ・グループディスカッション (先端モデル事業選定地域等の面的な魅力向上実現に向けたプロセス)		15:30~15:45 閉講式 (Iと合同)					

○使用教室: 本館2階第一教室及び3階講堂ほか(予定)

1. 日程表は都合により一部変更する場合があります。
2. 開講式は10時から行います。9時45分までに会場(本館2階第一教室)にお越しください。
3. 最終日の閉講式終了時間は15時45分を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度 環境行政基本研修 実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

環境省に他府省・地方公共団体等から出向した者、環境専門員、環境専門調査員及び任期付き職員が、環境省において業務を遂行するために必要な基礎知識及び環境行政全般にわたる基本的な考え方を習得する。

## 2. 期間及び実施方法

- (1) 期間： 令和5年4月4日（火）、6日（木）（2日間）
- (2) 実施方法： オンラインによる講義配信 ※接続先は別途連絡

## 3. 教科内容

裏面のとおりとする。

## 4. 研修予定人員

100名程度

## 5. 受講資格

次の各号のいずれかに該当し、研修受講に支障のない健康状態にあり、秘書課長の推薦を受けた者とする。

- (1) 他府省及び地方公共団体等から出向して1年未満の者
- (2) 環境専門員（環境行政実務研修生）（※1年目の者は必須）
- (3) 環境専門調査員
- (4) 任期付き職員（※採用されて1年未満の者）

## 6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、推薦書に別紙様式による「被推薦者名簿」を添えて、**令和5年3月30日（木）までに**、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。推薦後に変更があれば速やかに知らせること。

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、推薦者にその旨を通知する。

## 8. 研修結果の通知

所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に本研修を修了したものとし、研修終了後、所属長に受講の結果を通知する。

[令和5年度 環境行政基本研修教科内容]

1 環境行政の概況や基本的な考え方

- (1) 環境行政の現況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (2) 原子力規制行政について・・・・・・・・・・・・ 50分
- (3) 環境行政の現場業務（福島環境再生等）・・・・ 50分
- (4) 地球環境局について・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (5) 自然環境局について・・・・・・・・・・・・・・ 50分
- (6) 総合環境政策統括官グループについて・・・・ 30分
- (7) 地域脱炭素推進審議官グループについて・・・・ 30分
- (8) 環境保健部について・・・・・・・・・・・・・・ 30分
- (9) 水・大気環境局について・・・・・・・・・・・・ 30分
- (10) 環境再生・資源循環局について・・・・・・・・ 30分

2 環境省業務に携わる際に必要な基礎知識や基礎的事項

- (1) 服務、倫理、ハラスメント等／秘書課について・・・・ 50分
- (2) 環境省ネットワークシステムと情報セキュリティ対策／環境情報室について・・・・ 80分
- (3) 予算成立過程及び会計実務／環境省本省の過ごし方／会計課について・・・・ 40分
- (4) 文書管理、国会実務（法律成立過程）／大臣官房総務課について・・・・ 60分

合計 10時間30分

(注)

- 教科内容は、都合により一部変更になることがあります。
- 講義時間の延長等により研修の終了が若干遅れる場合があります。

# 令和5年度環境行政基本研修日程表

環境調査研修所

月 日										
4月4日 (火) ※オンライン	10:00～10:50 【講義】環境行政の現況 大臣官房総合政策課 課長補佐 安田 将人	11:00～11:50 【講義】服務、倫理、ハラスメント等／秘書課について 大臣官房秘書課 課長補佐 岩田 成実	12:00～13:00 昼休み	13:30～14:50 【講義】環境省ネットワークシステムと情報セキュリティ対策／環境情報室について 大臣官房総務課環境情報室 室長補佐 本間 康弘	15:00～15:40 【講義】予算成立過程及び会計実務／環境省本省の過ごし方／会計課について 大臣官房会計課 課長補佐 中野 剛、課長補佐 辻脇 基成	15:50～16:50 【講義】文書管理等について／国会実務について／大臣官房総務課について 大臣官房総務課 課長補佐 小林 浩治、課長補佐 松本 行央				
4月6日 (木) ※オンライン	10:00～10:50 【講義】原子力規制行政／原子力規制庁について 原子力規制委員会原子力規制庁 長官官房人事課 企画官 根塚 崇喜	11:00～11:50 【講義】被災地の環境再生／福島地方環境事務所について 福島地方環境事務所 次長 成田 浩司	12:00～13:00 昼休み	13:00～13:50 【講義】地球環境局について 地球環境局総務課 課長補佐 小沼 信之	14:00～14:50 【講義】自然環境局について 自然環境局総務課 課長補佐 中村 真紀	15:00～15:30 【講義】総合環境政策統括官Gについて 大臣官房総合政策課 課長補佐 安田 将人	15:30～16:00 【講義】地域脱炭素推進審議官Gについて 大臣官房地域政策課 課長補佐 三田 裕信	16:15～16:45 【講義】環境保健部について 環境保健部環境保健企画管理課 課長補佐 中島 治美	16:45～17:15 【講義】水・大気環境局について 水・大気環境局総務課 課長補佐 清水 延彦	17:15～17:45 【講義】環境再生・資源循環局について 環境再生・資源循環局総務課 課長補佐 黒部 一隆

- 注) ・終了時刻は、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。  
 ・オンライン接続先アドレスは、別途お知らせします。

# 令和5年度環境省職員研修（環境問題史）実施要綱

## 環境調査研修所

### 1. 目的

環境行政に従事する職員を育成する上では、単に知識だけにとどまらず、環境保全に尽力した先人の想いを継承し、将来世代への展望を描く意識を醸成していくことが重要である。このため、公害を克服すべく取り組み、未来に向けて環境保全を重視した地域づくりを進めている熊本県水俣市において、環境保全を軸とした地域再生の取り組みから地域住民等と連携した環境保全の推進方策を学び、今後の環境行政の遂行に必要な専門的知識を習得するとともに、実際に現場の見学、関係者との交流を通じて、体験をもとに自ら考えることを重視した研修を実施することにより、環境行政に携わる職員の資質の向上を図る。

### 2. 期間及び会場

- (1) 期間：令和6年1月17日（水）から1月19日（金）まで（3日間）
- (2) 会場：①現地見学：水俣病資料館、水俣病情報センター（株）JNC工場等（熊本県水俣市）  
②講義：水俣環境アカデミア、国立水俣病総合研究センター（熊本県水俣市）
- (3) 宿泊場所：スーパーホテル水俣（〒867-0043 熊本県水俣市大黒町1-1-38）
- (4) 集合場所：JR新水俣駅

### 3. 教科内容

別紙のとおりとする。

### 4. 予定研修人員

15名程度

### 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

- (1) 環境省職員及び環境専門調査員
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

### 6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」を添えて、令和5年11月2日（木）までに必着するよう、環境調査研修所あて文書により通知する。

なお、送付は電子での提出を基本とする。

【提出先】：KYOMU\_KA@env.go.jp

### 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

### 8. 修了証書の交付

受講の状態（修了または未修了）については、研修終了後大臣官房秘書課長に通知する。なお、所定の課程（原則として1割以上欠課した者を除く。）を受講した場合に修了とする。

修了した場合、希望者に対して修了証書（電子データ）を交付する。

### 9. 経費

往復に必要な交通費及び日額旅費を環境調査研修所から支給する。

なお、滞在費は別添により研修期間中に徴収する。

## 10. 日程

別添2 日程表のとおり。

## 11. その他

本研修は、国及び地方公共団体等職員を対象とした「令和5年度環境問題史研修（もやい直しー水俣の経験から学ぶ地域再生ー）」と合同で実施します。

## 令和5年度環境省職員研修（環境問題史）教科内容

- |   |          |        |
|---|----------|--------|
| 1. 過去と現状、地域再生の取組みを知る（講義、見学）   | ・・・・・・・・ | 9時間50分 |
| 水俣病の関係者の講義、関連施設の見学、企業・市民・行政の連携取組みの見学等を通して、実際の現場や関係者の想いに触れて、水俣病の歴史的経過・現状、地域再生の取組みについて理解を深める。 |          |        |
| 2. ワークショップ  | ・・・・・・・・ | 1時間30分 |
| 1で得たものについて、討議の中で自らの考えをまとめ、考察する。   |          |        |
| 3. その他（開・閉講式、オリエンテーション等）  | ・・・・・・・・ | 0時間30分 |

合計 11時間50分

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 開講式は、13時45分より行う予定です。13時15分までにJR新水俣駅にお集まりください。
- 最終日の終了時間は13時15分（JR新水俣駅着14時00分予定）を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

日程表 令和5年度環境問題史研修（もやい直し－水俣の経験から学ぶ地域再生－）  
令和5年度環境省職員研修（環境問題史）

別添2

令和6年1月17日(水)

13:00～13:30	13:15新水俣駅集合 13:15～13:30バス移動
13:30～13:45	<受付>
13:45～14:15	<開講式> (15分) <オリエンテーション> (10分) スタッフ紹介、スケジュール確認 場所：水俣環境アカデミア
14:15～14:45	「講演① 水俣病の歴史」 講師：熊本県 水俣病保健課 森主幹 場所：水俣環境アカデミア
14:45～15:00	移動（バス）
15:00～16:45	「国・市の施設見学ほか」 1.水俣病資料館・情報センター見学 (展示解説 各施設) 15:00～15:45 2.資料館語り部講話（水俣市立水俣病資料館語り部 緒方正実氏） 15:45～16:45
16:45～17:00	移動（バス）
17:00	宿泊先・スーパーホテル水俣 到着・休憩
18:30～20:30	<研修生交流会> 場所：福田農場

令和6年1月18日(木)

8:50	スーパーホテル水俣 出発
8:50～9:00	移動（バス）
9:00～10:00	「JNC工場見学」
10:00～10:30	移動（バス）
10:30～12:00	「講演② もやい直しの取り組み」 講師：榮永 徳博氏・水俣市南部もやい直しセンター「おれんじ館」館長 徳富 一敏氏 場所：国立水俣病総合研究センター
12:00～13:00	昼食（お弁当） 場所：国立水俣病総合研究センター
13:00～15:00	「国立水俣病総合研究センター見学・講義」 国立水俣病総合研究センター概要、水銀研究、国際貢献・地域貢献の取組、リハビリ室見学 場所：国立水俣病総合研究センター
15:00～15:30	移動（バス）
15:30～17:00	「企業と市民と行政の連携取り組み見学」(※) Aコース：田中商店（びんのリユース事業） Bコース：アクトビー・リサイクリング（家電リサイクル事業） Cコース：わく・ワークみなまた（障害福祉サービス事業所就労継続支援B）
17:00～17:15	移動（バス）
17:15	スーパーホテル水俣 到着

(※) 「企業と市民と行政の連携取り組み見学」は、A～Cのコースに分かれていずれかを見学します。

希望のコースは研修生決定後に確認しますが、各コースの定員の都合上、ご希望に添えない場合もございます。

令和6年1月19日(金)

8:30	スーパーホテル水俣 出発
8:30～8:40	移動（バス）
8:40～9:10	「講演③ 水俣市の環境への取り組み」 講師：水俣市環境課 場所：水俣環境アカデミア
9:10～10:00	「講演④ 水俣の海の再生への取り組み」 講師：水俣ダイビングサービス SEA HORSE 森下 誠氏 場所：水俣環境アカデミア
10:00～10:10	休憩
10:10～11:40	「まとめのワークショップ」・閉講式 ファシリテーター：水俣環境アカデミア所長 古賀 実 場所：水俣環境アカデミア
11:40～12:00	移動（バス）
12:00～12:45	昼食 場所：貝汁味処 南里
12:45～13:00	移動（バス）
13:00～13:15	水俣病慰霊の碑見学
13:15～13:25	移動（バス）
13:25～13:40	休憩（道の駅みなまた）
13:40～14:00	移動（バス）
14:00	新水俣駅着 解散

# 令和5年度環境省職員研修 (令和2年度入省職員フォローアップ研修) 実施要綱

環境省環境調査研修所

## 1. 目的

新型コロナウイルス感染症対策のため、集合研修の実施が制限される中、令和2年度から令和4年度入省の職員について集合形式の環境省新採用職員研修の実施が見送られていた。

本年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことから、これらの世代に対する能力向上及びコミュニケーションの活性化を目的として、今年度よりフォローアップとして集合研修を実施することとする。

また、今後新入職員などの指導係となると見込まれる世代となることから、各所属のチーム各員が成長を実感できる職場環境構築を目指し、部下とのコミュニケーション等に係る研修内容を充実することにより、新入職員等への指導力を獲得することも目的とする。

## 2. 期間及び会場

(1) 期間 令和6年2月15日(木)から2月16日(金)まで(2日間)

※期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 会場 環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3  
TEL 04(2994)9766

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 70名

## 5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当するものとする。

(1) 令和2年度環境省入省職員またはこれと同等と認められる者

(2) 研修受講に支障のない健康状態にある者

(3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

## 6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」を令和5年12月22日(金)までに必着するよう、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

## 7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

## 8. 修了証書の交付

受講の状態(修了または未修了)については、研修終了後大臣官房秘書課長に通知する。なお、所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した場合に修了とする。

修了した場合、希望者に対して修了証書(電子データ)を交付する。

## 9. 経費

(1) 往復に必要な旅費

環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

日額旅費を環境調査研修所から支給する。

\*研修受講に当たっての留意事項に関する情報を記載した「研修受講ガイドブック」を環境調査研修所ホームページ(URL <https://neti.env.go.jp/train/guidebook.html>)に掲載しておりますので御参照ください。

## ○ 令和5年度環境省職員研修（令和2年度入省職員フォローアップ研修） 教科内容

- |   |             |
|---|-------------|
| 1. 【講義】～環境省で働いてきた先輩から～（仮）   | 1. 5時間      |
| 環境省50年余の環境行政の歴史の流れ、その上での環境省の現在地点、今後に向けての課題について、長年環境省で働いてきた先輩の見方を教示いただく。これから環境省の第一線で勤務する研修生にとって、故きを温ねて新しきを知り、今後の業務遂行にあたっての視座を確立していくための講座とする。 |             |
| 2. 【講義】～環境省で働く先輩職員から～（仮）  | 1. 25時間     |
| 環境省の第一線で働いている先輩職員から、今までの仕事についての話を聞くことで、これからの係長として仕事をするにあたっての心構えを学ぶとともに、今後のキャリアデザインについて考える契機とする。本講義を通して、本研修の意義や自分なりの目的について意識を深める。            |             |
| 3. 【講義・演習】激変する時代・環境における次世代リーダースキル講座   | 6. 0時間      |
| 新入職員等の指導係になることが見込まれる世代であることから、はじめての指導について技術を学ぶとともに、今後の指導時に活かせるようにする。  |             |
| 4. 【討議】意見交換～今までの経験と研修で学んだことから～  | 0. 75時間     |
| 本研修で学んだ部下とのコミュニケーション方法等を通じて、今後どういった先輩職員（指導係）となっていきたいか、互いに議論し今後の職場生活での行動目標に落とし込んでいく。   |             |
| 4. その他（開・閉講式、オリエンテーション、自主討議等）   | 0. 75時間     |
|   | 合計 11. 25時間 |

（注）

1. 都合により一部内容を変更することがあります。
2. 開講式は、10時より行う予定です。9時30分までに入所してください。
3. 閉講式は15時45分に終了する予定ですが、若干遅れる場合もあります。
4. 帰路の航空機や列車の時間等により最終日の講義や閉講式を欠席することは認めません。

# 令和5年度環境省職員研修（令和2年度入省職員フォローアップ研修）

## 日程表

環境調査研修所

	10:00	10:30	10:45	12:00 13:00 (昼休み)	15:00 15:15 (休憩)	17:00	17:30	19:30
2月15日 (木)	9:30	10:00～10:30 開講式 オリエンテーション	10:45～12:00 【講義】 環境省21年の勤務経験を振り返って  株式会社脱炭素化支援機構 企画グループマネージャー 飯野 暁 (※環境省より出向)		13:00～17:00 (15分の休憩含む) 【講義・演習】 激変する時代・環境における次世代リーダースキル講座  コクヨ株式会社 坂本 崇博 萩原 謙一郎		17:30～19:30 懇親会	
2月16日 (金)		9:30～12:00 (15分の休憩含む) 【講義・演習】 激変する時代・環境における次世代リーダースキル講座  コクヨ株式会社 萩原 謙一郎		13:00～14:30 【講義】 教えてくれなかったもの だから～  元環境事務次官 西尾 哲茂	14:45～15:30 【討議】 意見交換 ～今までの経験 と 研修で学んだこ とから～	15:30～ 15:45 閉講式		

○使用教室：本館3階講堂

1. 日程表は都合により一部変更する場合があります。
2. 開講式は10時から行います。9時45分までに会場(本館3階講堂)にお越しください。
3. 最終日の閉講式終了時間は15時45分を予定しておりますが、講義時間の延長等により若干遅れる場合があります。
4. 帰路の航空機や列車等の時間により、講義等や閉講式を欠席することは認めません。

(問い合わせ先)

**環境省環境調査研修所教務課**

〒359-0042 所沢市並木 3-3

TEL 04-2994-9766

E-mail [kyomu\\_ka@env.go.jp](mailto:kyomu_ka@env.go.jp)

HP <http://www.neti.env.go.jp>